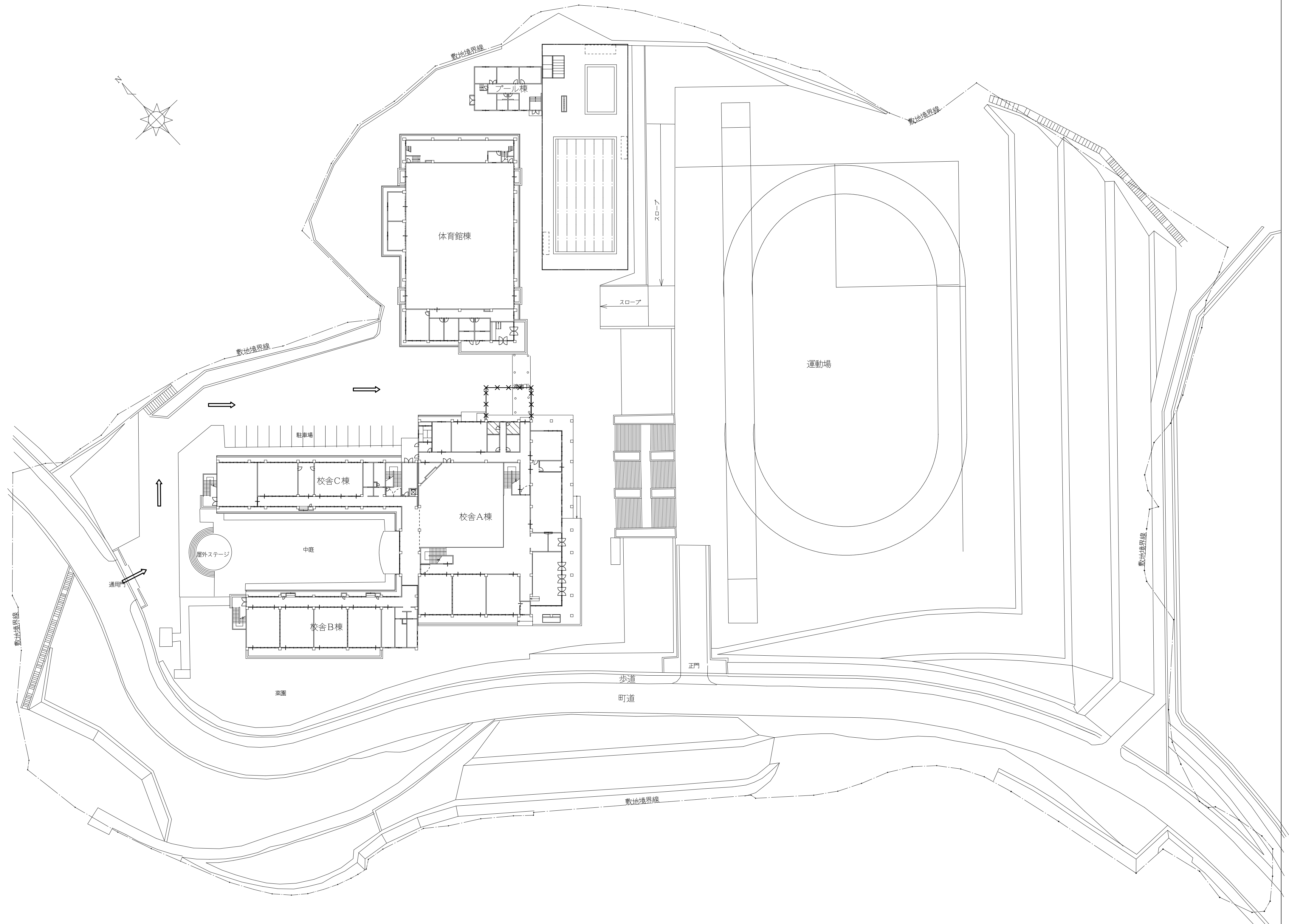


相楽東部広域連合立小中学校トイレ改修工事 (和束小学校第3期)

図 面 リ ス ト			
図面番号	図 面 名 称	図面番号	図 面 名 称
(意匠図)		(設備図)	
A-01	タイトル・図面リスト	E-01	特記仕様書
A-02	特記仕様書 1	E-02	(校舎A棟)現況・改修 電灯設備 1階平面詳細図
A-03	特記仕様書 2	M-01	特記仕様書 - 1
A-04	特記仕様書 3	M-02	特記仕様書 - 2
A-05	配置図	M-03	配置図
A-06	(校舎棟)現況 1・2階平面図	M-04	現況・改修階平面図
A-07	(校舎A棟)現況・改修断面詳細図	M-05	給排水衛生設備 現況・改修 平面詳細図
A-08	(校舎A棟)現況・改修平面詳細図	M-06	換気設備 現況・改修 平面詳細図
A-09	(校舎A棟)現況・改修展開図、現況・改修建具リスト	M-07	保温施工標準図 - 1

工事番号・工事名	2相連教第721号 相楽東部広域連合立小中学校トイレ改修工事 (和束小学校第3期)	S-19708	図面の名称	タイトル・図面リスト	作成年月日	令和2年5月				
株式会社	日匠設計	管理棟長士	窪田 耕一	棟長	杉本 孝良	作図	大久保 晴二	縮尺(A1)	縮尺(A3)	図面番号
大坂本社	大阪府大阪市東区1丁目3番12号	一級建築士	198531号	窪田 耕一				1:100	1:200	A-01
TEL	(072)-331-3857	FAX	(072)-334-5931							
滋賀事務所	滋賀県東部中央丁目95	一級建築士	109825号	杉本 孝良						
TEL	(0748)-72-1114	FAX	(0748)-72-1166							



仮設工事項目

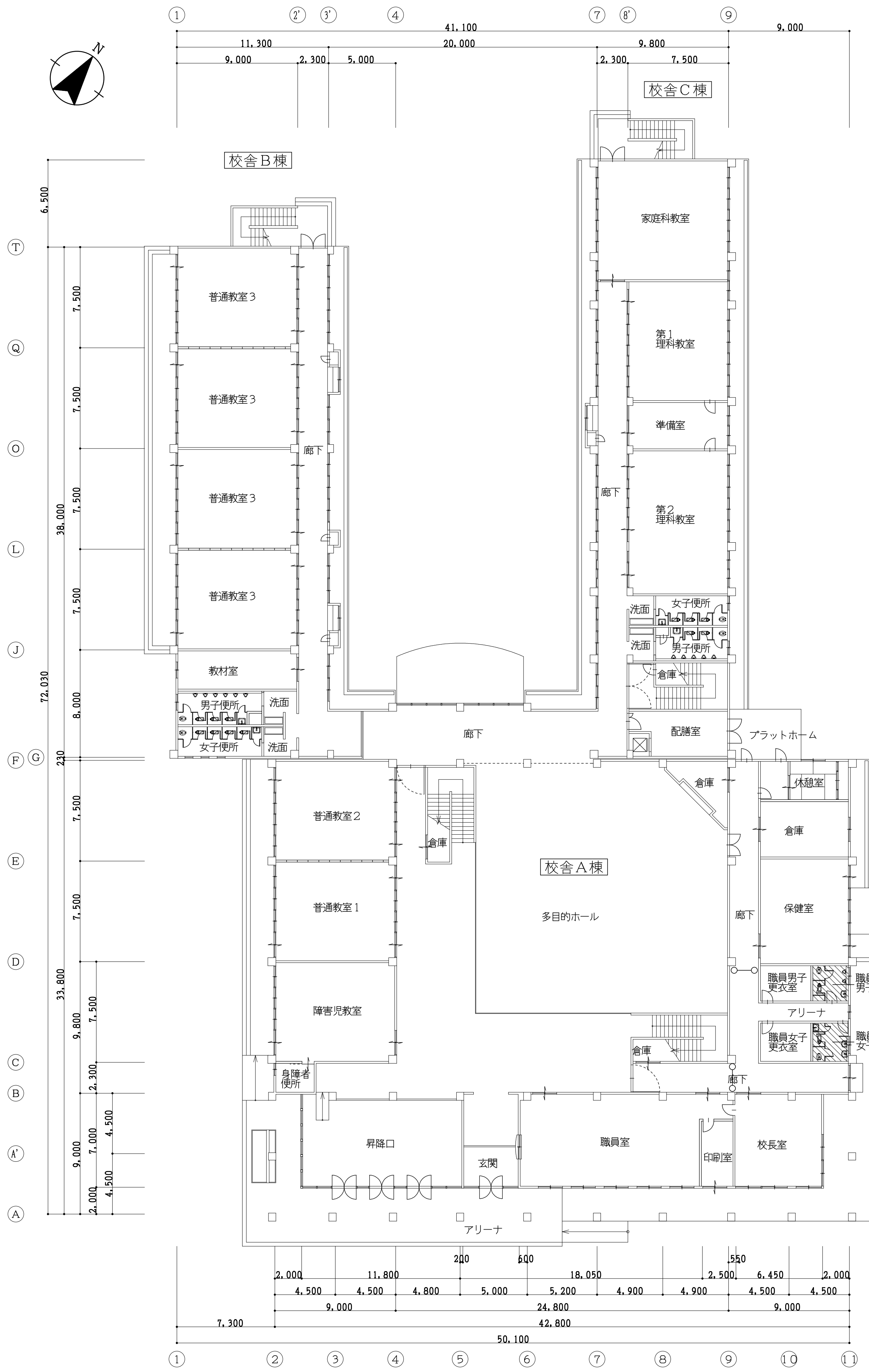
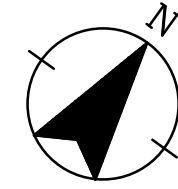
- | | |
|--|------|
| 1. 仮囲い バリケードフェンス H=1.8 (3ヶ月) | [凡例] |
| 2. 工事車両出入口 | → |
| 3. 仮囲い、現場事務所、工事車両駐車スペース等の配置については現場打合の上、最終決定とする | |

- ※ 仮設工事着手に先立ち、図示計画内容を基本に請負業者にて立案し承諾を得てから着手すること
- ※ 現場事務所、作業員詰所等の配置、規模は参考とする
- ※ 学校敷地内においての工事となる為、学校側と綿密に協議しながら工事の進捗を計ること
- ※ 工事は基本的にトイレ窓を作業動線とすること、但し大型材料等は学校と協議し昇降口等より搬入する
- ※ 学校に対する安全対策は万全を期すると共に学校行事にも協力すること
- ※ 工事関係者は図示工事エリア以外の学校敷地内駐車は不可、必要な場合は請負業者にて校外に別に確保すること

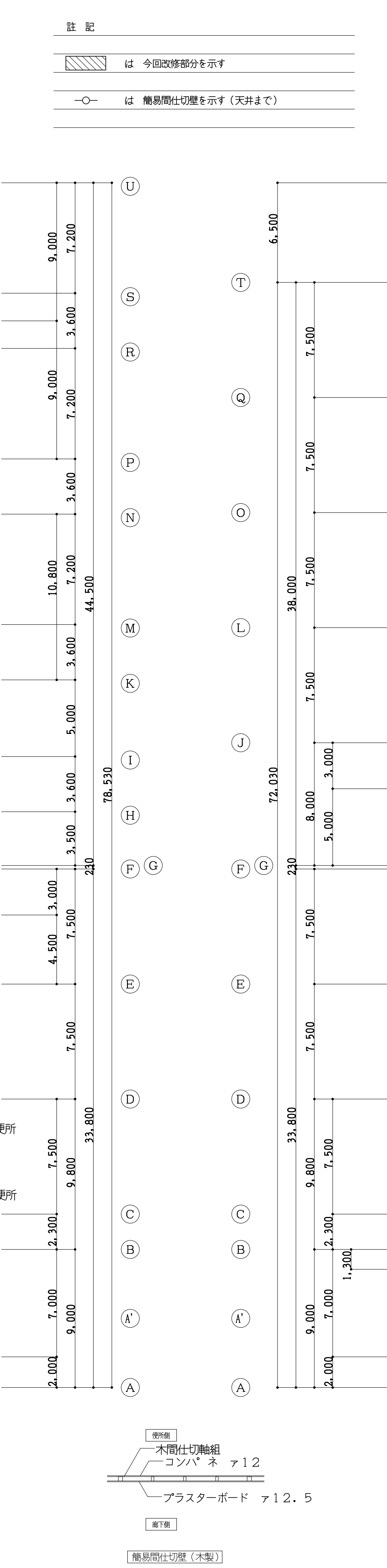
配置図 1:500

註記
 今回工事改修位置を示す

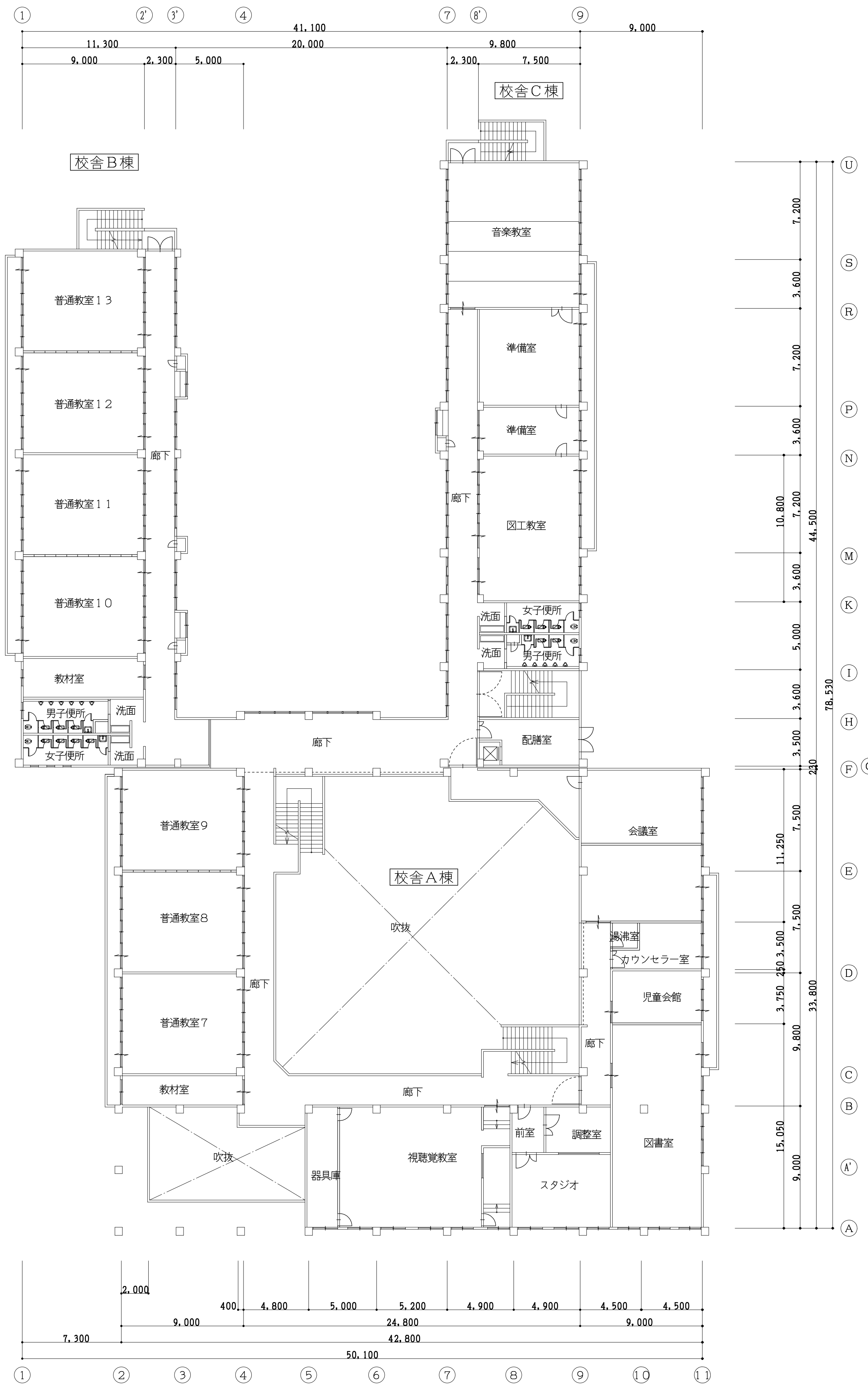
工事番号・工事名 2相連教第721号 相楽東部広域連立小中学校トイレ改修工事 (和束小学校第3期)		S-19708	図面の名称	作成年月日
		配置図		令和2年5月
株式会社 日匠設計 大阪本社 大阪府松原市南保1丁目3番12号 一級建築士 198531号 深田 耕一 TEL (072)-331-3857 FAX (072)-334-5931 滋賀事務所 滋賀県湖西市中央丁目95 一級建築士 109825号 杉本 孝良 TEL (0748)-72-1114 FAX (0748)-72-1166		管理棟課士 深田 耕一 棟 杉本 孝良 作図 大久保 晴二	縮尺(A1)	縮尺(A3)
			1:500	1:1000
			図面番号 A-05	



(校舎棟) 現況 1階平面図 1:200

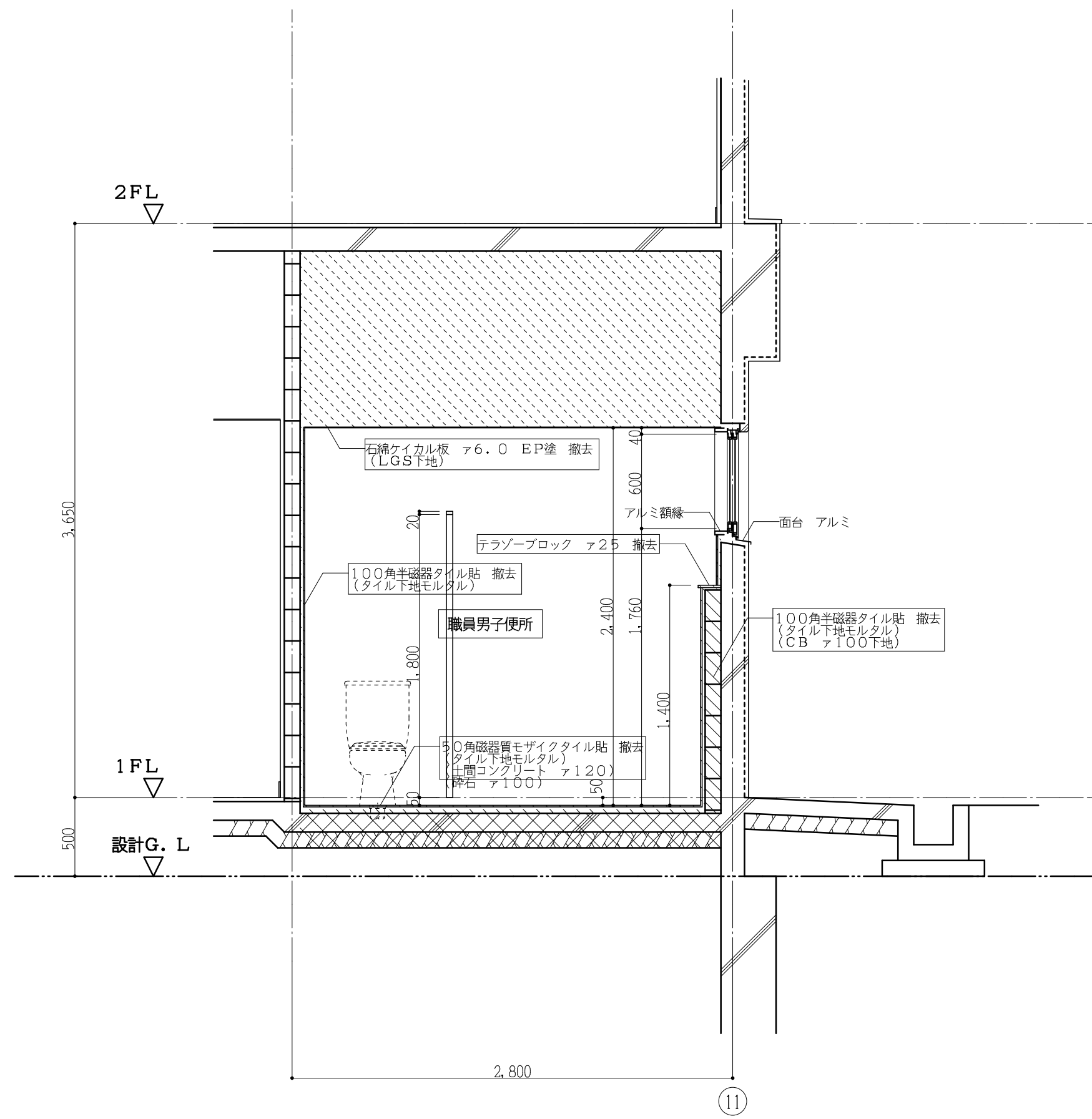


(校舎棟) 現況 2階平面図 1:200



(校舎棟) 現況 1・2階平面図

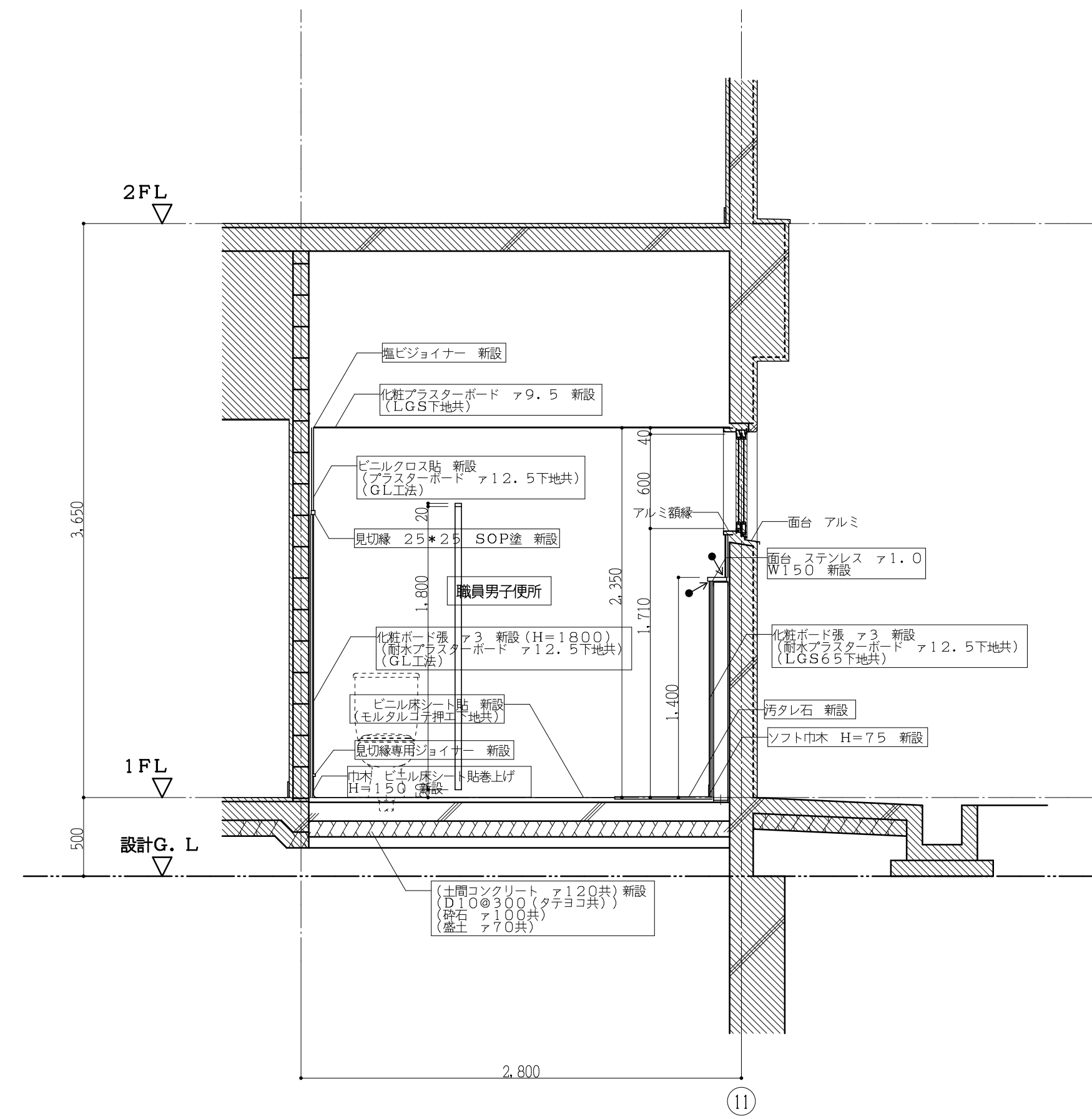
工事番号・工事名 2相連教第721号 相楽東部広域連立小中学校トイレ改修工事 (和東小学校第3期)		図面の名称 S-19708 (校舎棟) 現況 1・2階平面図	作成年月日 令和2年5月
株式会社 日匠設計 大阪本社 大阪府松原市内保1丁目3番12号 一級建築士 198531号 深田 耕一 TEL (072)-331-3857 FAX (072)-334-5931 滋賀事務所 滋賀県東部中央丁目95 一級建築士 109825号 杉本 孝良 TEL (0748)-72-1114 FAX (0748)-72-1166	管理建築士 深田 耕一 棟検 杉本 孝良 作図 大久保 晴二	縮尺(A1) 縮尺(A3) 1:200 1:400	図面番号 A-06



(校舎A棟) 現況断面詳細図 1:30

註記

	床スラブ・土間コンクリート撤去部分を示す
	仕上のみ撤去部分を示す(下地共)
	カッター切を示す
	の文字は今回工事部分を示す



(校舎A棟) 改修断面詳細図 1:30

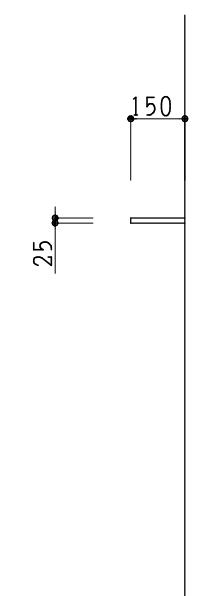
註記

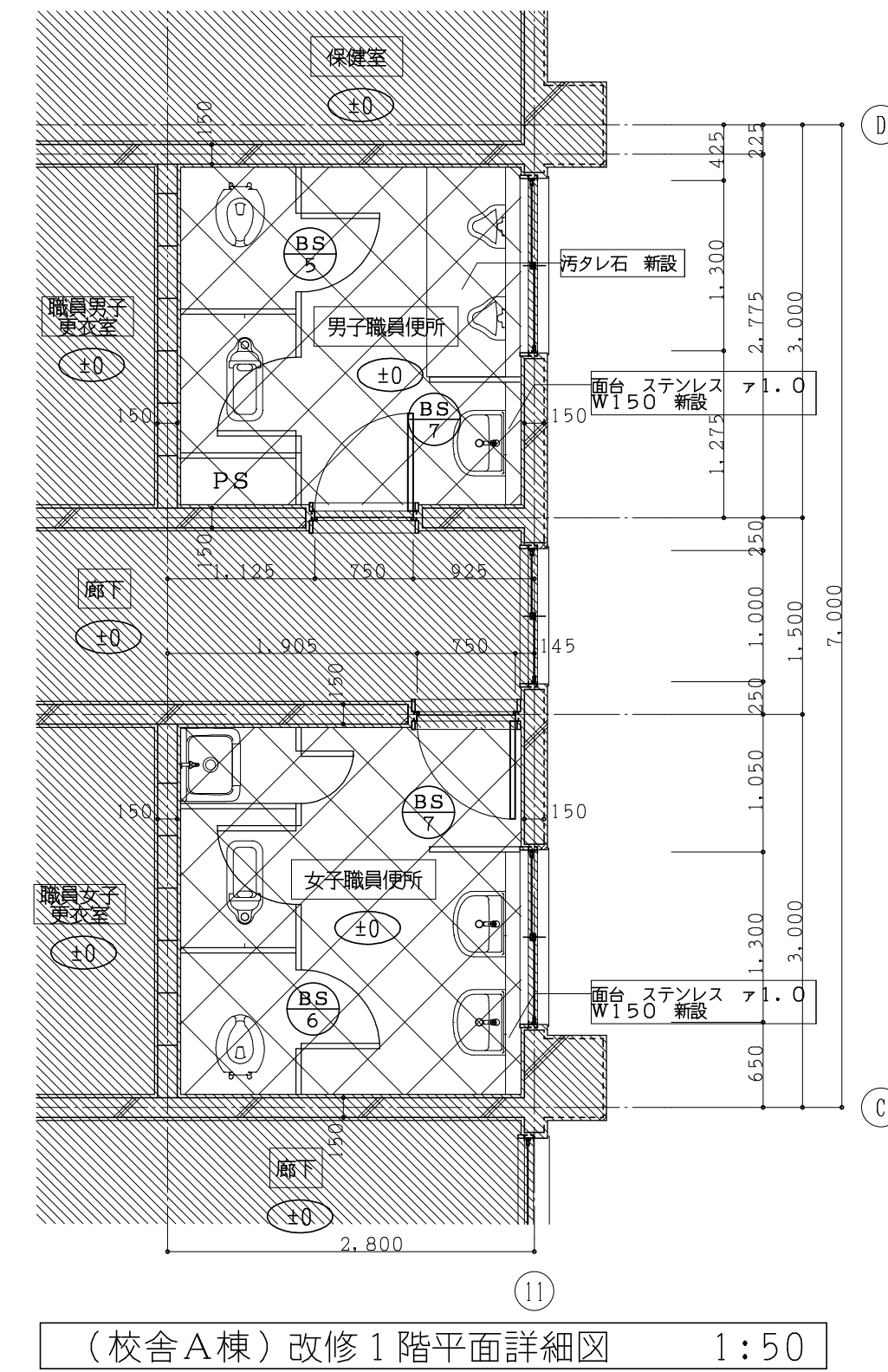
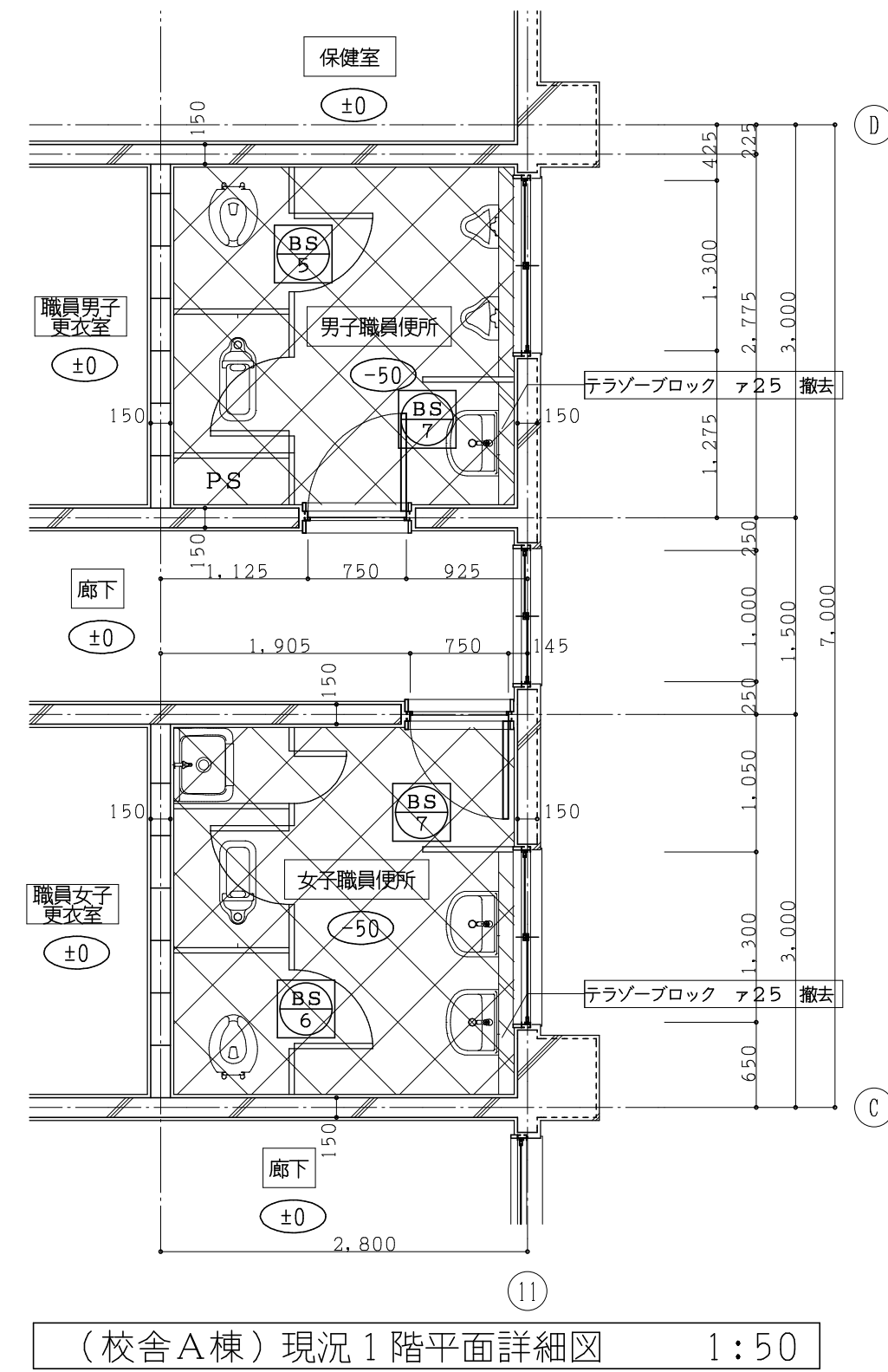
	床スラブ・土間コンクリート新設部分を示す
	仕上のみ新設部分を示す(下地共)
	既設部分を示す
	の文字は今回工事部分を示す
	はコーキング新設部分を示す 木材見切縁は柵を使用する

D-1 (校舎A棟) ステンレス面台

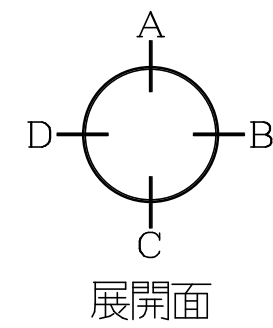
名称	材質・仕様
面台	ステンレス304 t1.0 木下地

器具番号	W×D	設置名	台数
1	940×150	1F 校舎棟職員男子便所(手洗い)	1台
2	1600×150	1F 校舎棟職員男子便所(小便器)	1台
3	1850×150	1F 校舎棟職員女子便所(手洗い)	1台

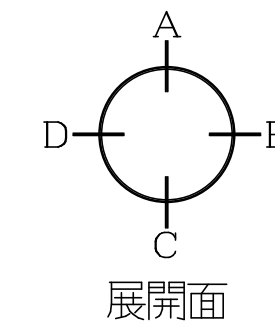




- 註記
- 土間コンクリート撤去部分を示す
 - 人研 撤去部分を示す
 - の文字は今回工事部分を示す
 - 撤去建具を示す
 - $\phi 4000$ 床高さを示す
 - 衛生器具は全て撤去（設備）



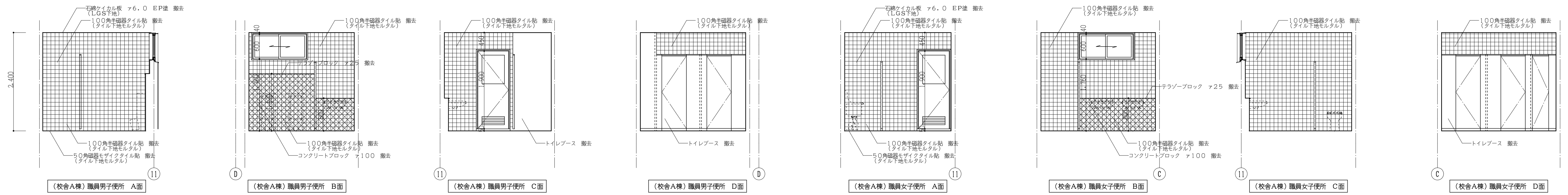
- 註記
- 土間コンクリート新設部分を示す
 - 既設部分を示す
 - の文字は今回工事部分を示す
 - 新設・改修建具を示す
 - $\phi 4000$ 床高さを示す
 - 衛生器具は全て新設（設備）



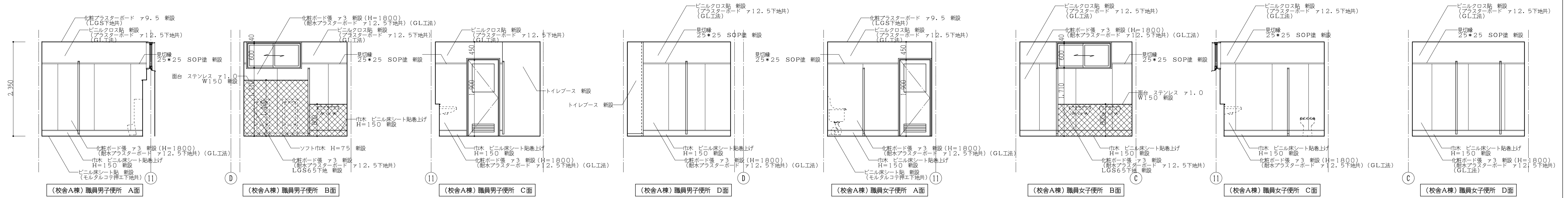
室内仕上 ()内は、下地を示す

棟	階	室名	天井高	床	巾木	腰壁	壁	天井	備考	
校舎A棟	1	男子便所	現況	2.400	50角磁器モザイクタイル貼 撤去 (タイル下地モルタル共) (土間コンクリート 2.120共)	100角半磁器タイル貼 撤去 (タイル下地モルタル共)	100角半磁器タイル貼 撤去 (タイル下地モルタル共) (一部 CB 2.100下地共)	同左	石膏ケイカル板 2.6.0 EP塗 撤去 (LGS下地共)	トイレブース 撤去
			改修	2.350	ビニルシート貼 新設 (モルタルコテ下地共) 汚濁石タイル貼 新設 (モルタルコテ下地共) (タイル下地モルタル共) (土間コンクリート 2.120共)	ビニルシート貼 H=150巻上げ 新設 (モルタルコテ下地共) 一部 シフト巾木 H=75 新設	化粧ボード張 2.6 新設 (H=1800) (耐水アースターボード 2.12.5下地共) (一部 LGS90下地共)	ビニルクロス貼 新設 (アースターボード 2.12.5下地共)	化粧アースターボード 2.9.5 新設 (LGS下地共)	トイレブース 新設
	女子便所	現況	2.400	50角磁器モザイクタイル貼 撤去 (タイル下地モルタル共) (土間コンクリート 2.120共)	100角半磁器タイル貼 撤去 (タイル下地モルタル共)	100角半磁器タイル貼 撤去 (タイル下地モルタル共) (一部 CB 2.100下地共)	同左	石膏ケイカル板 2.6.0 EP塗 撤去 (LGS下地共)	トイレブース 撤去	
		改修	2.350	ビニルシート貼 新設 (モルタルコテ下地共) (土間コンクリート 2.120共)	ビニルシート貼 H=150巻上げ 新設 (モルタルコテ下地共)	化粧ボード張 2.6 新設 (H=1800) (耐水アースターボード 2.12.5下地共) (一部 LGS90下地共)	ビニルクロス貼 新設 (アースターボード 2.12.5下地共)	化粧アースターボード 2.9.5 新設 (LGS下地共)	トイレブース 新設	

工事番号・工事名	2相連教第721号 相楽東部広域連立小中学校トイレ改修工事 (和東小学校第3期)	S-19708	図面の名称	(校舎A棟)現況・改修1階平面詳細図	作成年月日	令和2年5月
株式会社 日匠設計	大坂本社 大坂府松原市南原1丁目3番12号 一級建築士 198531号 深田 耕一 TEL (072)-331-3857 FAX (072)-334-5931 滋賀事務所 滋賀県瀬田中央丁目95 一級建築士 109825号 杉本 孝良 TEL (0748)-72-1114 FAX (0748)-72-1166	管理棟監士 深田 耕一 棟監 杉本 孝良 作図 大久保 晴二	縮尺(A1)	縮尺(A3)	図面番号	A-08
			1:50	1:100		



(校舎A棟) 現況展開図 1:50



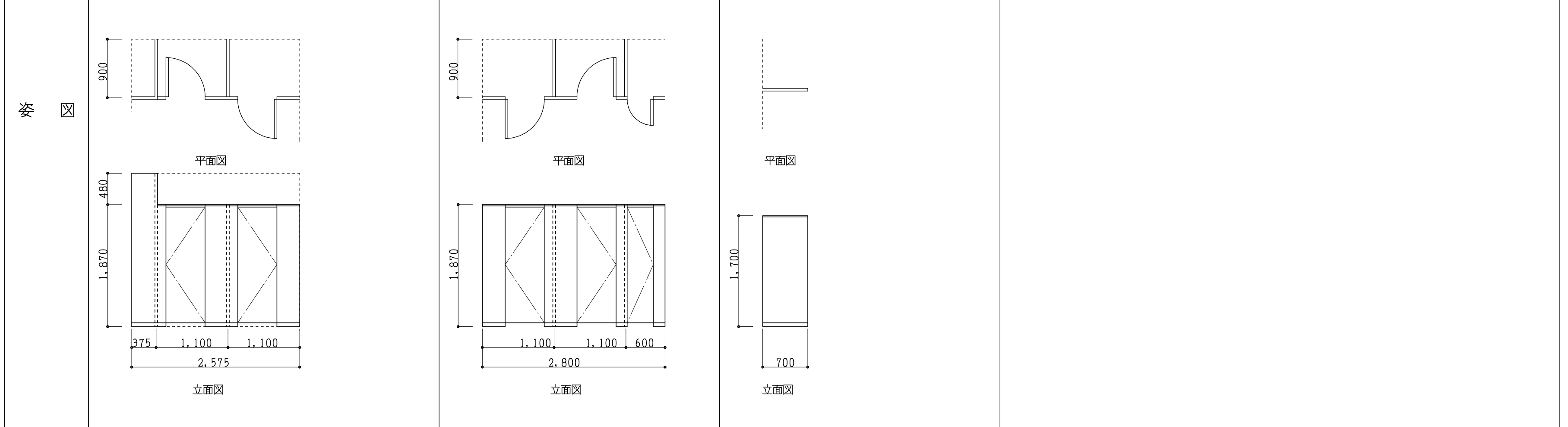
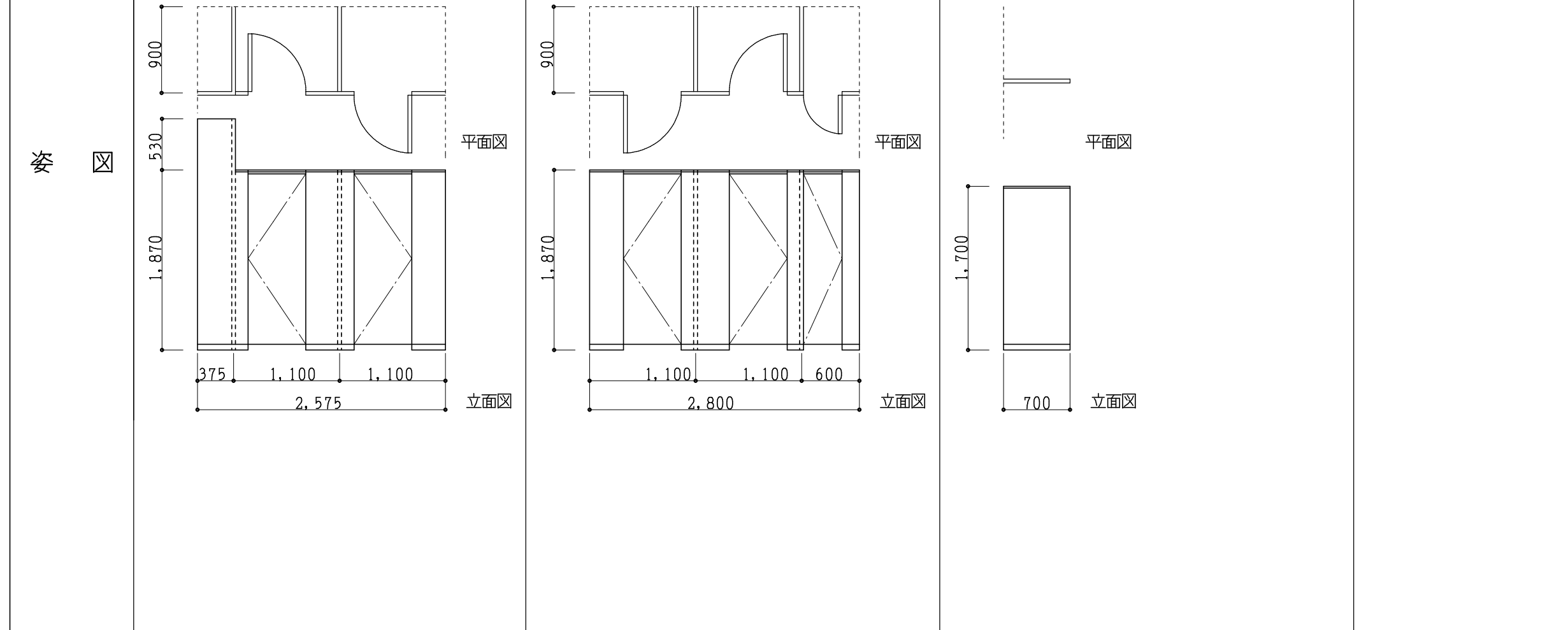
(校舎A棟) 改修展開図 1:50

現況建具リスト 1:50

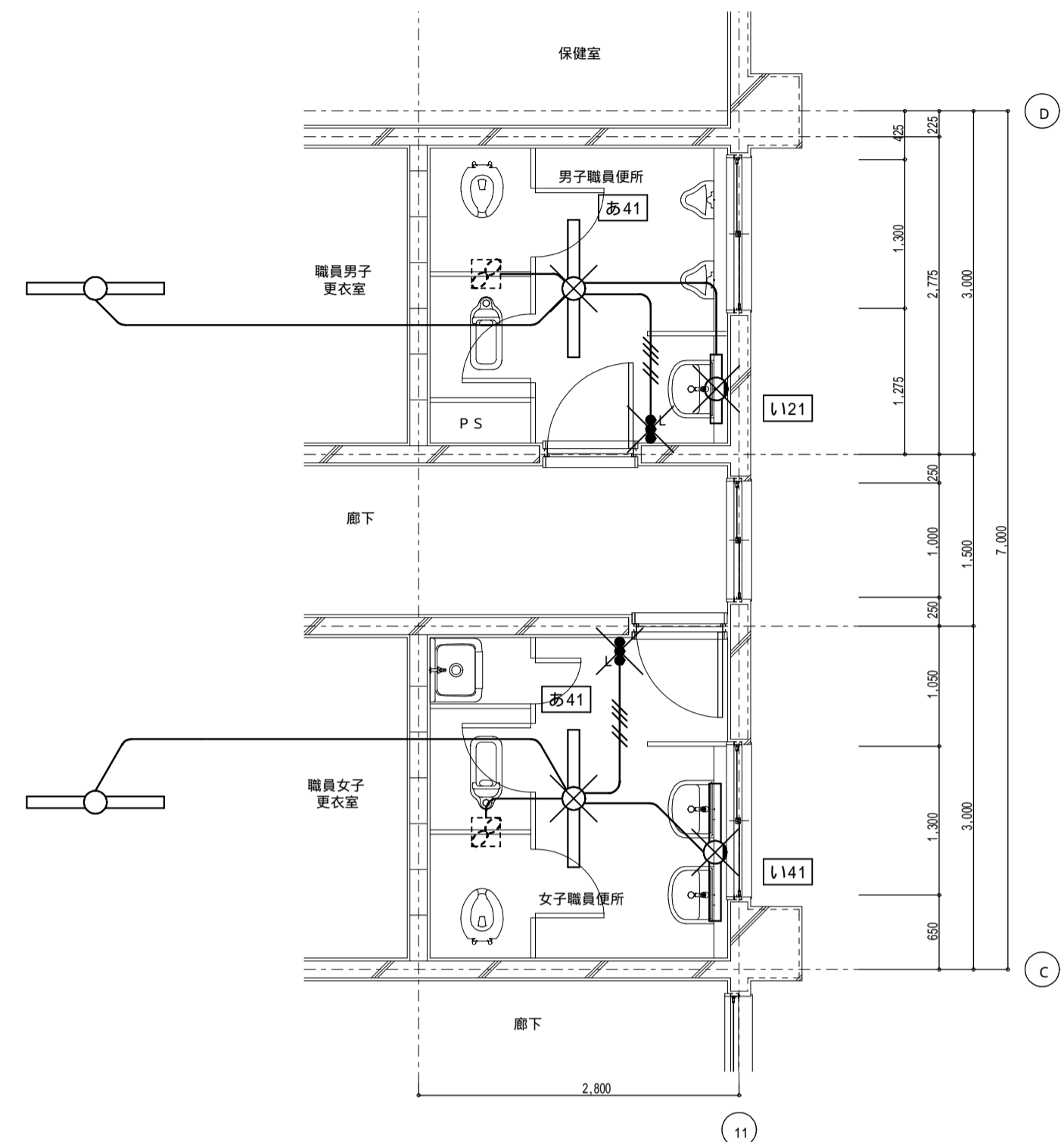
記号	BS5 トイレブース 撤去	BS6 トイレブース 撤去	BS7 トイレブース 撤去
見込	1ヶ所 40	1ヶ所 40	2ヶ所 40
仕上	ポリエステル化粧板貼	ポリエステル化粧板貼	ポリエステル化粧板貼
ガラス	-	-	-
金物	-	-	-
使用箇所	(校舎A棟) 1階男子職員便所	(校舎A棟) 1階女子職員便所	(校舎A棟) 1階女子職員便所
備考	-	-	-

改修建具リスト 1:50

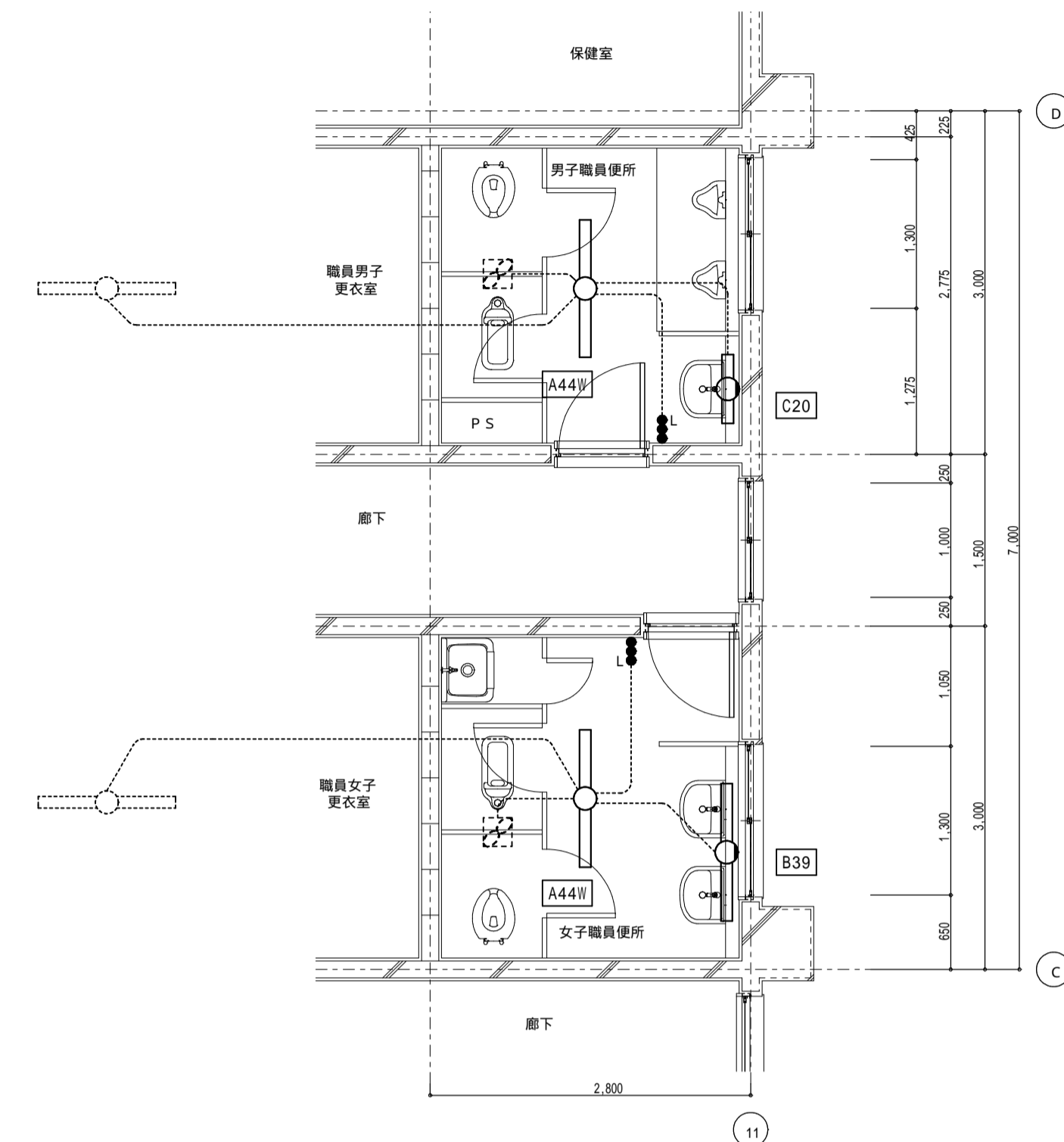
記号	BS5 トイレブース 新設	BS6 トイレブース 新設	BS7 トイレブース 新設
見込	1ヶ所 40	1ヶ所 40	2ヶ所 40
仕上	ポリ合板貼(小口処理)	同左	同左
ガラス	-	-	-
金物	SUS鍵ツギ40×20, SUS欄木, 表示鏡, グレティヒンジ, 戸当り帽子掛け付	同左	SUS鍵ツギ40×20, SUS欄木
使用箇所	(校舎A棟) 1階男子職員便所	(校舎A棟) 1階女子職員便所	(校舎A棟) 1階女子職員便所
備考	-	-	-



凡例 既存配管配線




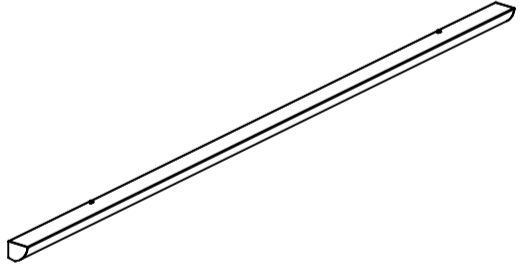
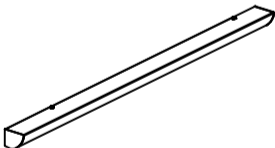
(校舎A棟) 現況1階平面詳細図 1:50



(校舎A棟) 改修1階平面詳細図 1:50

【特記事項】	
特記なき配管配線は下記の通りとする	
——	IV1.6 x2 (19)
——	IV1.6 x5 (25)
【凡例】	
×	撤去処分を示す。

撤去照明器具リスト		
あ41	直付富士型蛍光灯	FL40W x 1
い141	直付蛍光灯	FL40W x 1
い121	直付蛍光灯	FL20W x 1

A 4 4 W	iDシリーズ直付40形 Dスタイル 防湿防雨型 W150 6900lmタイプ	B 3 9	LED美光色ミラーライト W1210	C 2 0	LED美光色ミラーライト W620
 <p>定格出力: 電圧100-242V 全光束: 6900lm (電圧100V時) 消費電力: 38.1W 寿命: 50000時間 色温度: 5000K R383, IP23防湿型</p>		 <p>標準タイプ: 5000K, Ra95, 美光色タイプ 全光束: 675lm, 消費電力: 38.1W, 電圧: 100V カバー: プラスチック(乳白) サイドカバー: プラスチック(ホワイトツヤ消し) 電圧: 100V 幅: 130・高さ: 87・出し: 110</p>		 <p>標準タイプ: 5000K, Ra95, 美光色タイプ 全光束: 1325lm, 消費電力: 19.2W, 電圧: 100V カバー: プラスチック(乳白) サイドカバー: プラスチック(ホワイトツヤ消し) 電圧: 100V 幅: 72・高さ: 87・出し: 110</p>	
LSS9MP/RP-6450LMLN		参考品番: NNN15405LE1		参考品番: NNN13205LE1	

工事番号・工事名 相楽東部広域連立小中学校トイレ改修工事 (和束小学校第3期)	S-19708	図面の名称 (校舎A棟) 現況・改修電灯設備1階平面詳細図	作成年月日 令和2年5月
株式会社 日匠設計 大阪本社 大阪府松原市阿部1丁目3番12号 一級建築士 198531号 澤田 耕一 TEL (072)-331-3857 FAX (072)-334-5931 滋賀事務所 滋賀県瀬野町中央1丁目95 一級建築士 109825号 杉本 孝良 TEL (0748)-72-1114 FAX (0748)-72-1166	管理建築士 澤田 耕一 棟検 杉本 孝良 作図 大久保 誠二	縮尺(A1) 縮尺(A3) 1:50 1:100	図面番号 E-02

機械設備工事特記仕様書	
A) 工事概要 ※ 建築工事特記仕様書参照	
工事名称	相楽東部広域連立小中学校トイレ改修工事（和東小学校第3期）
工事場所	京都府相楽郡和東町大字園地内
建物構造	○ 一般建築物 ○ 準耐火建築物 ○ 耐火建築物
建物用途	建築基準法（ - ） 消防法（ - ）
用途地域	都市計画区域外
工事期間	

B) 建物概要 ※ 建築工事特記仕様書参照									
No	名称	構造	階数 ^{※1} _{※2}	延面積㎡	No	名称	構造	階数 ^{※1} _{※2}	延面積㎡
1			/		7			/	
2			/		8			/	
3			/		9			/	
4			/					/	
5			/					/	
6			/					/	
合計				㎡					

C) 工事種目													
摘要	No	工事種目	新設	増設	改修	撤去	摘要	No	工事種目	新設	仮設	改修	撤去
●	1	給水設備	●	○	○	●	○	8	空調機器設備	○	○	○	○
●	2	排水通気設備	●	○	○	●	○	9	空調配管設備	○	○	○	○
●	3	衛生器具設備	●	○	○	●	○	10	空調ダクト設備	○	○	○	○
○	4	ガス設備	○	○	○	○	○	1.1	放射冷暖房設備	○	○	○	○
○	5	給湯設備	○	○	○	○	○	●	1.2	換気設備	●	○	○
○	6	消火設備	○	○	○	○	○	○	1.3	消火器設備	○	○	○
○	7	し尿浄化槽設備	○	○	○	○	○	○	1.4	濯水設備	○	○	○

D) 適用事項	
● 適用	本共通事項及び特記事項については、●印のついたものを本工事に適用する。
● 監督員	監督員とは、工事請負契約書に規定する監督員をいう。 ● 国土交通大臣官房官庁営繕部監修工事標準仕様書（以下「標準」という）（最新版） ● 同標準図面（最新版） ● 改修工事標準仕様書（最新版） ● 建築設備施工上の指導指針及びその他関係諸法規に基づき完全に施工する。
● 共通仕様書	本工事は、契約規則、建築法、建築基準法、消防法及び労働安全衛生法等関係諸法令を遵守し施工する。
● 関連法規	本工事施工に当たり、優先順位は下記順位による。
● 優先順位	1. 現場説明書 2. 質疑回答書 3. 特記仕様書 4. 本設計図書 5. 共通仕様書 イ. 本工事は、工事請負契約書及び同約款を遵守し、本特記仕様書、図面、標準図及び共仕により完全に施工する。また、本工事契約前の質疑回答以外の事項については、法的及び技術上において本設計図書の内容を承諾したものとみなし、全ての検査合格までの責任をもって施工する。 ロ. 必要な関係諸官庁への申請手続きは、全て請負人が代行し、その費用も請負人の負担とする。 ハ. 各市町村の上下水道条例の摘要を受ける場合はこれに従って施工する。 ニ. 本設計図書は、工事の大要を悉すものであるから、着工前に施工図等を提出し、詳細位置等については監督員の承認を受けること。 ホ. 本設計図書に明記なき事項で、技術上、美観上、または保安上当然必要と認められるもの並びに現場の納まりに必要な軽微な変更は、監督員と協議の上での指示により施工する。この場合原則として、工事の増減は行わない。 ニ. 長寿社会福祉住宅設計マニュアルに準拠し施工のこと。（建設省住宅局住宅整備課監修）
● 技術管理	請負人は専任として建築法に定める技術者の任命を行い、現場に派遣し(○常駐する ○常駐しない) 技術管理にあたると共に建築主体工事、電気設備工事、その他関連工事について、その施工者と密な連絡を取り全工事に支障なきよう施工する。● 主任技術者は1級建築工事管理技士とする。
● 提出書類	1. 施工計画書 2. 下請業者リスト 3. メーカーリスト 4. 機器承諾函 5. 施工図 6. 各種工程表 7. 日報 8. 自主検査成績表 9. その他必要書類 10. 製作図
● 機器材料等	機器材料、製品等は特記されたもの、又は同等品以上とし監督員の承認を受ける事。 また工場製作機器類においては、その工場での立会い検査を行う場合がある。
● 仮設工事	本工事に必要な仮設電力、ガス、水道等の引込工事費、負担金、基本料金、使用料等は引渡しの日まで原則として請負人の負担とする。
● 建築工事との取合い	着工前に施工図を作成し、建築工事、電気設備工事担当者と協議し承認の上監督員の承認を得るものとする。
● 工事写真	工事写真に関しては、● 写真撮影は、建設大臣官房官庁営繕部監修[工事写真の撮り方] ● 工事完成後に見えない地中埋設、コンクリート埋設、天井裏部分等を監督員の指示箇所をカメラ撮影による。
○ 既設再使用品	既設取外し再使用機器は、機器性能を確認の上、整備(必要最小限の配管、配線、塗装等のやり替え)をし、再使用する。
● 耐震施工	機器の据付、配管等の支持については、地震力を考慮し、[建築設備耐震設計施工指針]を参考とする。
● 別途工事	請負人は工事別の業者でお互いに連絡をとり、定期的に協議を行い、工事施工上の調整を図る事。
● 連絡協議	又、工事区分の取合いについて図示あるも施工時に必要に応じ協議を行い連絡を密にすること。
● 産業廃棄物の処理	発生材のうち引渡しを要するものは、指示された場所に整理の上調査を添えて監督員に引渡す。 又、引渡しを要しないものは「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」、建設副産物適正処理推進綱等に準じ適切に処理することとし、事前に監督員に施工計画書を提出し承諾を得る事。 特別管理産業廃棄物(有/無)
● 公害対策	工事着工前に付近の状況を調査し、公害対策は工事竣工まで講じる事。
○ 統括安全衛生管理義務者	労働安全衛生法第30条第2項の統括安全衛生管理義務者には、(○ 建築工事 ○ 電気設備工事 ○ 機械設備工事)の請負人を指名する。 工事車両の出入りに付いては、危険防止に努める事。また必要に応じて交通整理員を配置するとともに近隣家屋に騒音、振動等の公害を発生しないよう留意し、工事全般に支障なきよう万全の策を講じること。 また施設運営についても監督員と協議し、支障なきよう努める事。
● 安全対策	請負人は工事の内容に応じた火災保険、組立保険、第三者保険を工事的目的に付すものとする。
○ 試験等	工事完成後、監理者の指示により各機器の試運転調整及び総合的試験を行う。
● 竣工可経	本工事竣工時に諸官公庁の竣工検査及び監理者、施主の検査に合格して竣工とし引渡すものとする。
● 竣工提出図書	1.竣工図 2.竣工写真 3.機器取扱説明書 4.機器保証書 5.各種申請許可書 6.各種自主検査記録 7.備品及び備品リスト 8.検査済証
● 竣工図	建築特記仕様書による

● 責任施工保証書	責任施工の保証は材料製造所、施工下請業者、請負契約者連名書の合格書又は保証書を提出する。
● 取扱説明	本工事完了後引継までの間に保守保安担当者にて各機器の取扱説明を行うこと。 竣工引渡後、契約保証期間内において、施工上の欠陥或いは使用材料の不備により生じた破損又は故障箇所は、直ちに無償にて修理する。
○ 隣接施設について	
○ 提出図面	
○ 省エネ	
E) 工事範囲	

種目	適用	項目	特記事項
給水設備	● 1	● 工事範囲	本工事は下記の事項に従って給水栓に至るまでの配管、機器及び器具取付工事の一切を施工する。
	●	● 水源	● 上水道
	●	● 給水方式	○直圧式 ○加圧式 ●重力式 ○既設管分岐延長
	○	○ 引込工事	○ 本工事 ○ 別途工事 親メーター(○貸与 ○買取) 子メーター(○貸与○本工事)
	○	○ 負担・加入金等	○ 本工事 ○ 別途工事
	○	○ 受水槽	()製・容量(m ³) 耐震 1.0G ○ ポンプ室付
	○	○ 高架水槽	()製・容量(m ³) 耐震 1.0G
	●	● 配管材料	屋外埋設: ○ 硬質塩化ビニル管 HVP(JIS K 6742) ○ ビニールライニング鋼管 VD(JWWA K 116) ○ 鉄製管(JIS G 5525) ○ 鋼板製(φ) ○ ステンレス製(φ) ○ 亜鉛鍍鉄板製(φ) 屋外架空: ○ ビニールライニング鋼管 VA(JWWA K 116) ○ ポリブチレンライニング鋼管 PB(JWWA K 132) ○ ステンレス鋼管(JIS G 3448-SUS304) 屋内埋設: ○ 硬質塩化ビニル管 HVP(JIS K 6742) ○ ビニールライニング鋼管 VD(JWWA K 116) ○ ポリブチレンライニング鋼管 PD(JWWA K 116) ○ 排水用鉛管(SHASE-S 203)
	●	● 配管材料	屋外埋設: ○ 硬質塩化ビニル管 HVP(JIS K 6742) ○ ビニールライニング鋼管 VD(JWWA K 116) ○ 鋼製鋼管(JIS G 5525) ○ 鋼製鋼管(JIS G 5525) ○ ステンレス鋼管(JIS G 3448-SUS304)
	●	● 継手・弁類	青銅製バルブ(JIS B 2011) 鉄製バルブ(JIS B 2031) 青銅製コア付バルブ(JV5-1, JV5-2) ステンレス製バルブ(JV8-1, JV8-2) ライニング鋼管には管端防食継手(埋設部は外面樹脂被覆型)を使用。 ライニング鋼管に使用する50A以下の弁は管端コア付弁、65A以上はライニング弁とする。 上水道直圧部 JIS 10 Kg/cm ² その他 JIS 5 Kg/cm ² とする。
●	● 各種試験	● 区間水圧試験 ○ 飲料水適性試験を行う。(箇所) 給水装置の構造及び材質については、水道法施行令第5条の基準に適合する事。 給水配管の接合剤は、上水道用接合剤とする。 配管材料及び施工方法は、管轄部署の規格等に合ったものを使用する事。	
●	● その他		

排水通気設備	● 2	● 工事範囲	本工事は下記の事項に従って排水器具取付、配管工事を行い公共共有での一切を施工する。
	●	● 排水種別	● 汚水 ● 雑排水 ○ 雨水
	●	● 排水方式	○単独式 ○合流式 ●屋内分流屋外合流式
	●	● 放流先	○ 公共下水道 ○ 排水処理槽 ○ 朝溜・水路 ● 既設管 ○ その他
	●	● 通気方式	○ 伸張通気 ○ ルーブ通気
	●	● 配管材料	屋外埋設: ○ 硬質塩化ビニル管 VU(JIS K6741) ○ 鋼筋管(EGP) ○ ヒーム管(HP) 屋外架空: ○ 硬質塩化ビニル管 VP(JIS K6741) 屋内埋設: ○ 硬質塩化ビニル管 VP(JIS K6741) ○ 排水用ビニールライニング鋼管(DVLP) ○ ステンレス鋼管(高温水) 屋内架空: ● 硬質塩化ビニル管 VP(JIS K6741) ○ 排水用ビニールライニング鋼管(DVLP) ○ 排水用鉄製管(CIP) ○ 石綿層管(TMP) ○ 耐熱塩化ビニル管(HT) PS管: ○ 耐火パイプ ○ 排水用鉄製管(CIP)
	○	○ 排水樹材料	○ 現場打ち ○ 住宅公団型 ○ コンクリート製既製品 ○ 樹脂製既製品
	○	○ ポンプ槽	○ PC製 (樹脂製ポンプ)
	○	○ 各種試験	○ 通水試験 ○ 漏水試験 ○ 煙試験
	●	● その他	排水設備の設置及び構造については、下水道法施行令第8条の基準に適合する事。 曲がり部は大曲がりエルボを使用し排水の流通をよくする。 階以上の建物に関する排水管には、各階毎に満水試験継手を設ける。 居室の天井、壁を穿る排水管で排水音の発生する恐れのある箇所には防音シート巻きを施す。 コンクリート製台所、汚水樹、浄化槽との硬質塩化ビニル管の接続部は、砂付き加工の工場製品を使用し漏水防止を図る。 配管材料及び施工方法は、管轄部署の規格等に合ったものを使用する事。

衛生器具設備	● 3	● 工事範囲	本工事は衛生器具表及び下記事項に従って衛生器具の供給、取付工事を行なう一切を施工する。 大機器洗浄方式は ● フラッシュ(FV)弁(ハキュームブレーカー付)式 ○ ロータンク式 ○ 身障者用FV弁(○ 壁及び足踏み式 ○ 光電式) 小便器洗浄方式は ○ 押知FV弁 ● 電子式 ○ ハイタンク(○ 洗浄管露出 ○ 同左埋込)式 水栓類は節水コマ付き、フラッシュバルブは節水型とする。なお管末屋外水栓は凍結防止水栓とする。
	●	● 衛生器具	小便器洗浄方式は ○ 押知FV弁 ● 電子式 ○ ハイタンク(○ 洗浄管露出 ○ 同左埋込)式 水栓類は節水コマ付き、フラッシュバルブは節水型とする。なお管末屋外水栓は凍結防止水栓とする。
	○	○ その他	
	○	○ 工事範囲	本工事は下記の事項に従ってガス配管、機器及び器具の供給、取付工事を行ないガス器具へのガス供給までの一切を施工する。
	○	○ ガスの種別	○ 都市ガス ○ プロパンガス
	○	○ 負担金等	○ 要 ○ 不要
	○	○ 工法	○ ネジ込工法 ○ SGM工法
	○	○ 配管材料	屋外埋設: ○ ポリエチレン被覆鋼管(PLS) ○ ガス用ポリエチレン管 ○ 大阪ガスの仕様 屋外架空: ○ 配管用炭素鋼鋼管(SGP-B) ○ 大阪ガスの仕様 屋内埋設: ○ ポリエチレン被覆鋼管(PLS) ○ 塩ビ外面被覆鋼管(VS) ○ 大阪ガスの仕様 屋内架空: ○ 配管用炭素鋼鋼管(SGP-B) ○ ガス用ポリエチレン管 ○ 大阪ガスの仕様
	○	○ 使用機材	都市ガスの場合は供給会社の認定品 コック類は過流出防止装置付 湯沸器の接続は可とう管及び可とう管コックとする。
	○	○ 試験	気密試験後、点火試験を行い燃焼の確認、機器調整を行う。 埋設で合成樹脂被覆鋼管の接続は、合成樹脂被覆メカ継手、サービスコックは合成樹脂被覆ポールバルブとする。 本工事はガス事業法または、高圧ガス取締法に準じて施工を行う。液化石油ガスの各種検査は、供給者又はLPGガス保安センターの検査を受け合格すること。 プロパンガス設備工事の施工者は、特定液化石油ガス設備工事業者であり、作業者は液化石油ガス設備士とする。

種目	適用	項目	特記事項
給湯設備	○ 5	○ 工事範囲	本工事は下記の事項に従って給湯栓に至るまでの配管、機器及び器具取付工事の一切を施工する。
	○	○ 方式	○ 個別(局所)方式 ○ 中央方式 ○ 中央個別方式
	○	○ 給湯機器	○ 瞬間湯沸器 ○ 給湯機 ○ 電気温水器 ○ 業務用エコキュート
	○	○ 熱源	○ 都市ガス ○ プロパンガス ○ 灯油 ○ A重油 ○ 電気
	○	○ 貯湯槽	○ クラッド鋼板製 ○ ステンレス鋼板製 ○ 鋼板製内回りライニング加工 ○ 防食(○ 外部電源方式 ○ 電流陽極方式)
	○	○ 膨張水槽等	○ 鋼板製 ○ ステンレス鋼板製 ○ 耐熱樹脂製
	○	○ その他	○ 密閉式
	○	○ 防食(○ 亜鉛アルミニウム合金溶射 ○ エポキシ樹脂ライニング)	
	○	○ 脱酸鋼管(M) ○ 保温材(20t)付金属強化ポリエチレン管	
	○	○ 鋼板製(φ) ○ ステンレス製(φ) ○ 亜鉛鍍鉄板製(φ)	

消火設備	○	○ 配管材料	配管には空気溜まりのないように施工し、図示以外で施工上必要な箇所には空気ぬき弁を取り付ける。
	○	○ 煙道材料	湯沸器排気管は厚さ0.5mm以上のステンレス鋼板製とする。 付属設備 排煙濃度計(○設ける ○設けない) 配管には空気溜まりのないように施工し、図示以外で施工上必要な箇所には空気ぬき弁を取り付ける。
	○	○ その他	配管の膨張伸縮の逃がしが必要な箇所には伸縮継手を取り付けたこと。
	○ 6	○ 工事範囲	本工事は下記の事項に従って機器取付工事の一切を施工する。
	○	○ 方式	○ パッケージ型消火設備 ○ 屋内消火栓 ○ 泡消火栓 ○ スプリンクラー
	○	○ 消火栓形式	○ 連結送水管 ○ 水噴霧消火 ○ 粉末消火 ○ 連結散水
	○	○ 消火栓ポンプ形式	○ 埋込型 ○ 露出型 ○ 自在輻組込型 ○ 連結送水口組込型 ○ 易操作性1号 ○ 水機器納箱付消火栓納箱
	○	○ 配管材料	○ ユニット ○ 単体 ○ 呼水タンク付 ○ 制御盤付 屋外埋設: ○ ポリエチレン外面被覆鋼管(PS) ○ 塩ビ外面被覆鋼管(VS) 屋外架空: ○ 水道用亜鉛鍍鉄鋼管(SGPW) ○ 配管用炭素鋼鋼管(SGP-B)
	○	○ 各種試験	屋外埋設: ○ ポリエチレン外面被覆鋼管(PS) ○ 塩ビ外面被覆鋼管(VS) 屋内架空: ○ 水道用亜鉛鍍鉄鋼管(SGPW) ○ 配管用炭素鋼鋼管(SGP-B) ○ 区間水圧試験 ○ 放水水圧試験 ○ ポンプ遠方起動試験 所轄消防署と充分協議のうえ、法的に支障のないよう施工を行う。 凍結(屋外等)の恐れがある箇所においては保温を行う。 屋内消火栓箱には消火ポンプ運転表示灯を取付けたこと。
	○	○ その他	

し尿浄化槽設備	○ 7	○ 工事範囲	本工事は下記の事項に従って配管、機器取付工事の一切を施工する。
	○	○ 浄化槽種類	○ 単独浄化槽 ○ 合併浄化槽 ○ 小規模合併浄化槽
	○	○ 材質	○ FRP製 ○ コンクリート製(○ 全て本工事 ○ 躯体のみ建築工事)
	○	○ 構造・材質	○ 地下式 ○ 半地下式 ○ 地上式 ○ ユニット型
	○	○ 処理能力	人槽(m ³ /日)
	○	○ 処理方式	○ 接触ばっ気 ○ 長時間ばっ気 ○ 沈殿分離ばっ気 ○ 分離接触ばっ気 ○ 嫌気ろ床接触ばっ気 ○ 分離ばっ気 ○ 現場施工型
	○	○ 処理水質	BOD(ppm) COD(ppm) N(ppm) P(ppm)
	○	○ 山止め	○ 不要 ○ 要(○ 簡易矢板 ○ 木製矢板 ○ 鋼矢板)
	○	○ 放流先	○ 敷地内排水溝 ○ 河川
	○	○ その他	○ 詳細には別紙図面参照のこと。 ○ 本工事は保護用コンクリートスラブ及び支柱 ○ 制御盤及び2次側電気配管配線工事 ○ プロアー用配管 ○ プロアーポンプ基礎及び保護カバー

空調機器設備	○ 8	○ 工事範囲	本工事は下記の事項に従って配管、機器取付工事の一切を施工する。																				
	○	○ 方式	○ 中央方式 ○ 個別方式 ○ 中央・個別方式 ○ マルチ方式																				
	○	○ 熱源	○ 都市ガス ○ プロパンガス ○ 灯油 ○ A重油 ○ 電気																				
	○	○ 熱源機器	○ 吸収式冷水機 ○ 水冷式チリングユニット ○ 空冷式チリングユニット																				
	○	○ 空調調機	○ 温水ボイラー ○ 蒸気ボイラー ○ ヒートポンプ装置 ○ ファンコククター ○ ファンコクベクター ○ ガスヒートポンプエアコン ○ コンベクター ○ ヒートポンプエアコン ○ エコアイス ○ 温風暖房機																				
	○	○ 設計温湿度条件	<table border="1"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th colspan="2">屋外</th> <th colspan="2">屋内</th> </tr> <tr> <th>時期</th> <th>温度(DB)</th> <th>湿度(RH)</th> <th>温度(DB)</th> <th>湿度(RH)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏期</td> <td>33.3℃</td> <td>59.9%</td> <td>26℃</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>冬期</td> <td>-2.1℃</td> <td>71.1%</td> <td>22℃</td> <td>50%</td> </tr> </tbody> </table>	場所	屋外		屋内		時期	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)	夏期	33.3℃	59.9%	26℃	50%	冬期	-2.1℃	71.1%	22℃	50%
	場所	屋外		屋内																			
	時期	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)																		
	夏期	33.3℃	59.9%	26℃	50%																		
	冬期	-2.1℃	71.1%	22℃	50%																		
○	○ 付属機器	○ 感震器 ○ 膨張水槽 ○ 密閉式膨張タンク ○ クッションタンク ○ 外機防雪フード ○ 防霜高架台 ○ 防振架台(○ OSメーカー指定品)																					
○	○ 工事範囲	本工事は下記の事項に従って配管工事の一切を施工する。 冷水水管: ○ ステンレス鋼管 ○ スーパーエロメタックス(50A以下) 冷却水管: ○ ビニールライニング鋼管(VA) ○ 耐衝撃性硬質塩化ビニル管(HVP) 冷媒管: ○ 冷媒用被覆鋼管 排水管: ○ 硬質塩化ビニル管(VP) ○ 配管用炭素鋼鋼管(SGP-B) 膨張管: ○ 水道用亜鉛鍍鉄鋼管(SGPW) ○ 耐熱性ビニールライニング鋼管(HTLP) 蒸気管: ○ 配管用炭素鋼鋼管(SGP-A) ○ 圧力配管用炭素鋼鋼管(SGH40 HTLP) 必要な箇所には自動空気抜弁、温度計、圧力計、パイパス弁等を取付ける。 配管の膨張伸縮の逃がしが必要な箇所には伸縮継手を取り付けたこと。 配管には空気溜まりのないように施工し、図示以外で施工上必要な箇所には空気ぬき弁を取り付ける。																					
○	○ 空調配管設備																						
○	○ その他																						

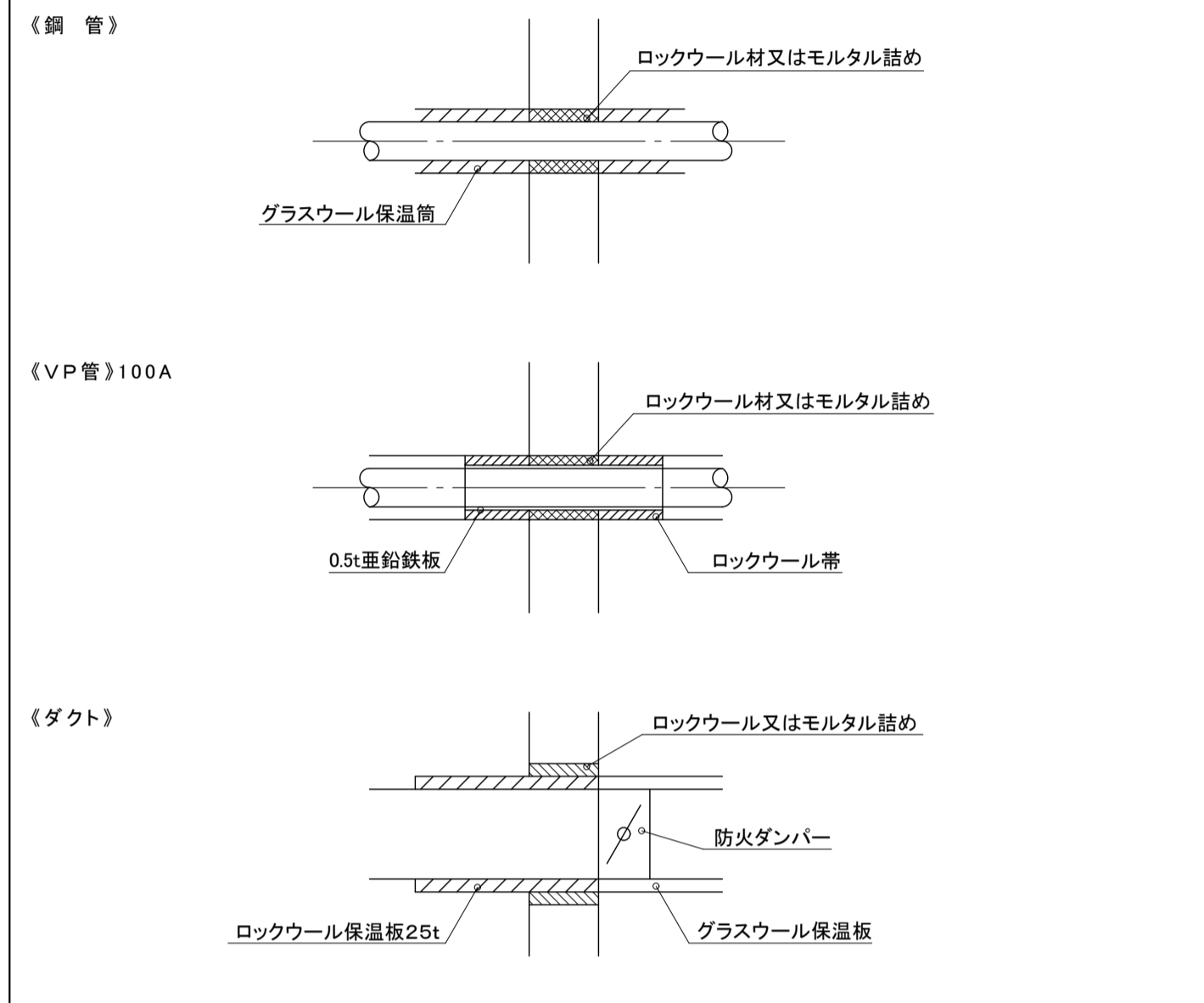
種目	適用	項目	特記事項
空調ダクト設備	○ 10	○ 工事範囲	本工事は下記の事項に従ってダクト取付工事の一切を施工する。
	○	○ ダクト材料	○ 亜鉛鍍鉄板 ○ グラスウールダクト ○ コンクリートダクト ○ 塩ビ鋼板 ○ 亜鉛鍍鉄板製スパイラルダクト ○ 空調用保温付フレキダクト ○ ステンレス鋼板
	○	○ ダクトの工法	○ アングル工法 ○ コーナーポルト工法
	○	○ 煙道材料	○ 鋼板製(φ) ○ ステンレス製(φ) ○ 亜鉛鍍鉄板製(φ) 風量測定可能な測定口を監督員と協議の上取り付ける。 外壁ガラスに直接取り付けるチャンパー類にはドレン板を設ける。 チャンパーには点検口を設ける(断熱仕様)
	○	○ その他	
	○	○ 工事範囲	本工事は下記の事項に従って配管、機器取付工事の一切を施工する。
	○	○ 熱源	
	○	○ 熱源機器	
	○	○ その他	
	○	○ その他	

放射冷暖房設備	○ 11	○ 工事範囲	本工事は下記の事項に従って配管、機器取付工事の一切を施工する。
	○	○ 熱源	
	○	○ 熱源機器	
	○	○ その他	
	○	○ 工事範囲	本工事は下記の事項に従って配管、機器取付工事の一切を施工する。
	○	○ 送風機	○ 換気扇 ● 天井埋込型換気扇 ○ 全熱交換ユニット ○ ルーフファン ○ シロコファン ○ ハイファン ○ 有任換気扇 ○ レンジフード
	○	○ ダクト材料	○ 亜鉛鍍鉄板 ● スパイラルダクト ○ ステンレス板 ○ 硬質塩化ビニル管 ○ アルミフレキダクト ○ グラスウールダクト
	○	○ ダクトの工法	○ アングル工法 ○ コーナーポルト工法
	○	○ フード	○ 亜鉛鍍鉄板 ○ ステンレス板 ○ 塩ビ板
	○	○ その他	送風機据付については、防音、防震に注意して施工の事。 排気ダクトは外壁より1mまで、給気ダクトは全て防露工事を行う。 全熱交換ユニットにおける本体から外壁までの給気及び排気ダクトには防露工事を行う。 多湿箇所及び多湿箇所を通過するダクトは塩ビ管とする。

消火器設備	○ 12	● 工事範囲	本工事は下記の事項に従って配管、機器取付工事の一切を施工する。
	○	○ 種類及び能力又は本数	○ ABC10型 ○ ABC20型
	○	○ その他	バルク貯槽・ガス給湯器(屋外機械置場)は ○ 屋外露出図とする。 ○ 歩行距離20m以内に設置 所轄消防署と充分協議のうえ、法的に支障のないよう施工を行う。
	○	○ 工事範囲	本工事は下記の事項に従って配管、機器取付工事の一切を施工する。
	○	○ 灌水パイプ	ウォーターズプレイパイプ
	○	○ 配管材料	屋外埋設: ○ 硬質塩化ビニル管 HVP(JIS K 6742)
	○	○ 工事範囲	本工事は下記の事項に従って配管、機器取付工事の一切を施工する。
	○	○ 工事範囲	本工事は下記の事項に従って配管、機器取付工事の一切を施工する。
	○	○ 工事範囲	本工事は下記の事項に従って配管、機器取付工事の一切を施工する。
	○	○ 工事範囲	本工事は下記の事項に従って配管、機器取付工事の一切を施工する。

消火器設備	○ 13	○ 工事範囲	本工事は下記の事項に従って配管、機器取付工事の一切を施工する。
	○	○ 種類及び能力又は本数	○ ABC10型 ○ ABC20型
	○	○ その他	バルク貯槽・ガス給湯器(屋外機械置場)は ○ 屋外露出図とする。 ○ 歩行距離20m以内に設置 所轄消防署と充分協議のうえ、法的に支障のないよう施工を行う。
	○	○ 工事範囲	本工事は下記の事項に従って配管、機器取付工事の一切を施工する。
	○	○ 灌水パイプ	ウォーターズプレイパイプ
	○	○ 配管材料	屋外埋設: ○ 硬質塩化ビニル管 HVP(JIS K 6742)
	○	○ 工事範囲	本工事は下記の事項に従って配管、機器取付工事の一切を施工する。
	○	○ 工事範囲	本工事は下記の事項に従って配管、機器取付工事の一切を施工する。
	○	○ 工事範囲	本工事は下記の事項に従って配管、機器取付工事の一切を施工する。

防火区画貫通箇所施工要領
《給排水管》
1. 銅管の場合
ー管径に関係無く通常の保温工事で良い
ー区画貫通箇所はロックウール材又はモルタル詰めを行う
2. VP管の場合
ー125mm以上は銅管又は大臣認定のトミンパイプを使用する
ー100mmには0.5t垂鉛鉄板を前後1m巻く事
・保温は保温材がポリスチレンフォーム保温筒の場合は ロックウール保温帯25tを鉄線にて取り付ける
・区画貫通箇所はロックウール材又はモルタル詰めを行う
・鉄板は区画貫通箇所を通して、前後1m管材の上に巻き その上に保温を行う
ー75mm以下は鉄板巻き不要である
・保温材はポリスチレンフォーム保温筒で良い、ただし 貫通箇所はロックウール保温材又はモルタル詰めをする



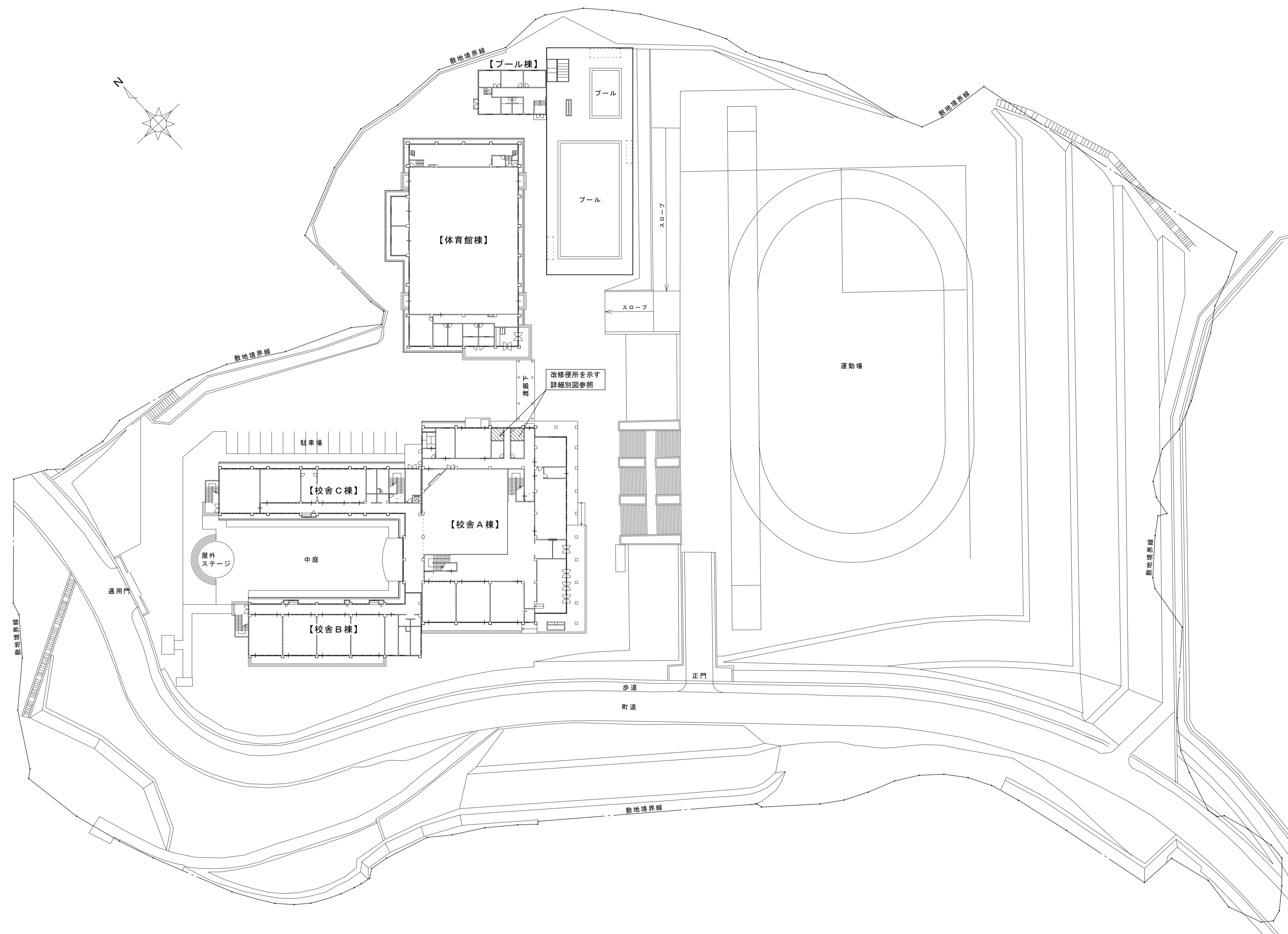
F) 追記事項
設備図共通特記事項
1・建築設備の構造については、H12 建告1388号に適合する事。
2・給水装置の構造及び材質については、水道法施行令第5条の基準に適合する事。
3・排水設備の設置及び構造については、下水道法第10条・下水道法施行令第8条の基準に適合する事。
4・建築設備の支持構造部および緊結金物で腐食のおそれがある部分には 平12建告1388号第1に従い防護措置を講じること (令129条の2の4第2号)
5・配管設備の構造は 平12建告1388号第4の規定に従う (令129条の2の4第2号)
6・配管・風道が 令112条15項に規定する防火区画および 令114条に規定する界壁、防火上主要な間仕切壁または隔壁を貫通する場合は、モルタルまたはロックウールを充填すること (令112条16項、昭48建告2565号、昭49建告1579号、平12建告1376・1377号)
7・給水装置については水道法施行令第5条、給水装置の構造および材質の基準に関する省令の規定に従う (水道法16条、給水装置の構造および材料の基準に関する省令)
8・排水設備の構造は下水道法10条3項および同法施工令第8条の規定に従う (下水道法施工令第8条に基づく条例)
9・ガスおよび換気設備は、液化石油ガスの保安の確保および取引の適正化に関する法律施行規則44条の規定に従う (液化石油ガスの保安の確保および取引の適正化に関する法律38条の2)
10・電気設備は、電気技術基準に関する省令に定める工法により設ける (法32条、電気事業法39条1項・56条1項、電気設備に関する技術基準を定める省令)
11・火を使用する設備またはその使用に際し火災の発生のおそれのある設備の位置、構造は火災予防条例の規定に従う (消防法9条)
12・消防用設備などは、消防法17条の規定に従い設置する (消防法施行令第2章、消防法17条2項に基づく条例)
13・水道法16条・ガス事業法40条の4・液化ガス38条の2により適切な施工を行うこと。
14・給水排水その他の配管設備の設置及び構造について、施工令第129条の2の5各項、各号及び関係告示による。
15・排水のための配管設備の容量及びその算定方法並びに傾斜
■ 排水負荷単位法
□ 定常流量法 (SHASE S206-2000)
□ その他
※配管の傾斜は有効な数値を確保するものとする。
16・給水管に講じたウォーターハンマー防止のための処置
■ 流速を小さくする。
□ ウォーターハンマー防止器を設置する。
□ 排水ポンプ出口に水撃防止型逆止弁を使用する。
□ その他

G) 特記事項
● 地中埋設の銅管類は防食処理を行う。またコンクリート貫通箇所はラスチックテープを巻きモルタル埋めとする。
● 建物内埋設配管は全てスラブより吊るものとし、その要領は共用による。
○ 冷暖房・給湯設備における試運転用油はオイルタンクの1/3程度とする。
○ 埋設配管において、深さ1.5m以上の施工に関しては、山止め工事を行う。
● 既設建物等のはつりボアあけに関しては、ダイヤモンドカッターを使用する。
● 本工事にて別途及び支給機器の配管等の接続工事、機器調整はすべて本工事とする。
● 屋外土中埋設配管に関しては、埋設標示テープ、標示ピン及び標示杭を設ける。
● 機械設備工事範囲内の電気設備工事は、全て別途電気設備工事仕様に準じて施工する。
新設工事以外の既設工事部分については、既設内容、取り合いを良く調査して既存施設の機能を低下せしめてはならない。
● なお当該工事に於いては、既設配管、既設埋設配管があった場合は監督員の指示は本工事にて迂回等の工事を行う。
また撤去工事は既設配管の行き先を確認したうえ安全に処理する。
● 防火区画、用途区画貫通に関しては建築基準法施行令第129条の2の第1項7号に基づき区画貫通する管は、貫通前後1mを不燃材で遮るか建設省告示3183号により完全に施工する
● 防火、防煙ダンパー類は、(財)日本建築センターの防災認定マークを貼付されたものとする。
○ 配管埋設標準深さは 一般地 GL-300mm 車両通路 GL-750mm 公道 GL-1200mm とする。
● 給水配管の接合剤は、上水道用接合剤とする。
● 排水管の曲がり部は大曲がりエルボを使用し漏水をよくする。
○ 3階以上の建物に關する排水管には、各階毎に満水試験継手を設ける。
○ 居室の天井、壁を通る排水管で排水管の発生する恐れのある箇所には防音シート巻きを施す。
● コンクリート製金所、汚水樹、浄化槽との硬質塩化ビニール管の接続部は、砂付き加工の工場製品を使用し漏水防止を図る。
○ 埋設で合成樹脂被覆鋼管の接続は、合成樹脂被覆メカ継手、サービソックは合成樹脂被覆バルブと使用する。
● 水栓類は節水コマ付き、フラッシュバルブは節水型とする。なお末屋外水栓は凍結防止水栓とする。
○ LPGの場合には 親メーター 自動切替弁 乾割防止継
本工事はガス事業法または、高圧ガス取締法に準じて施工を行う。液化石油ガスの各種検査は、供給者又はLPガス保安センターの検査を受け合格すること。
プロパンガス設備工事の施工者は、特定液化石油ガス設備工事業者であり、作業者は液化石油ガス設備士とする。
配管には空気溜まりのないように施工し、図示以外で施工上必要な箇所には空気めき弁を取り付ける。
○ 配管の膨張伸縮の逃がしが必要な箇所には原則としてベローズ型伸縮継手を取り付けたこと。
○ 所轄消防署と充分協議のうえ、法的に支障のないよう施工を行う。
● 凍結(屋外等)の恐れがある箇所においては保温を行うか水抜き配管を施工する。
○ 屋内消火栓箱には消火ポンプ運転表示灯を取付ける。
○ 風量測定可能な箇所には測定口を監督員と協議の上取り付ける。
○ 外壁ガラリに直接取り付けるチャンパー類にはドレン抜を設ける。
○ チャンパーには点検口を設ける(断熱仕様)
● 送風機取付については、防音、防塵に注意して施工し、必要な箇所には防音、防振器具を設ける事。
○ 全熱交換ユニットにおける本体から外壁までの給気及び排気ダクトには防露工を行う。
● 排気ダクトの外壁から1m以内及び給気ダクトには防露工を行う。
○ 多湿箇所及び多湿箇所を通過するダクトは塩ビ製とする。
○ 医療ガス設備に関しては、厚生省保険医療監修機械設備共通仕様基準に準ずる。
○ 住戸内の給水・給湯・ガス配管はポリブテン管を使用しさや管ヘッダー方式により施工する。
○ また、将来配管の入れ替え交換や接続が容易に行える様施工する事。
○ 配管等の防火区画貫通の防火措置工法は、220号特例基準に準拠し、防火(BCJ)認定品及び工法を用いること。
○ 総合調整
下記の項目の総合調整を行うものとし調整時期、日程、人員、安全対策、調整方法をまとめた実施計画書を作成し測定をおこなうものとし、結果を記録し提出のこと。
A. 測定及び調整
(1)個別機器の試運転調整・(2)風量の調整及び測定・(4)室温の測定・(5)水量調整、調整、測定
(5)騒音、振動
B. 調整後の確認
(1)異常音・(2)設計値との最終確認
C. 調整結果の記録

I) 工事区分 ※別紙参照
適用 工 事 項 目
● 1) 配管、衛生器具、換気扇、ダクト等スリーブ、箱入れ工事
○ 2) 同上構造体鉄筋鉄骨補強工事
● 3) 外壁貫通部分の防水処理工事
○ 4) 配管等穴開け、はつり部分の仕上げ工事
● 5) 埋込型埋込機器等天井、壁ボード開口工事
● 6) 同上地下補強工事
● 7) 天井、壁、床に必要な点検口取付工事
○ 8) 設備機器基礎 空調機器類及び床暖房熱源機の基礎工事
○ 9) 設備機器基礎 水槽類及び業務用エコキュートの基礎工事
○ 10) 上水道引込本管接続工事
○ 11) ガス引込本管接続工事
○ 12) 公共下水道接続工事
○ 13) 雨水排水工事
○ 14) 業務用厨房器具取付工事
○ 15) 同上配管接続工事
○ 16) 洗面カウンター工事
○ 17) はめ込洗面器配管接続工事
○ 18) 化粧鏡
○ 19) 洗濯機バリエーション供給、取付工事
○ 20) ユニットシャワー供給、設置工事
○ 21) ユニットバス配管接続工事
○ 22) ガス給湯器リコン取付工事
○ 23) 同上リコン用配管工事
○ 24) 同上リコン配線接続工事
○ 25) 給排水消火等 ポンプユニット制御盤1次側電源工事
○ 26) 同上ポンプユニット制御盤2次側電気工事
○ 27) 同上ポンプユニット制御盤回路2次側電気工事
○ 28) 液面電極棒取付及び液面調整工事
○ 29) 換気扇取付特工事
● 30) 換気扇供給、取付工事
○ 31) 同上用温度スイッチ供給取付工事
○ 32) OAガラリ、排気ガラリ等取付工事
○ 33) ドアガラリ取付工事
○ 34) クーラー配管スリーブ、カバープレート取付工事
○ 35) エアコン供給取付工事
○ 36) 空調機室内外機一次側電源供給
○ 37) 空調機室内外機間の制御用配線配管工事
○ 38) 空調室内機リモコンスイッチ取付工事
○ 39) 空調室内機リモコンスイッチ用配線配管工事
● 40) 土間コンクリート取り壊し、復旧
● 41) 同上仕上げ工事
● 42) 既設アスファルト舗装取り壊し、復旧
● 43) 配管改修・ダクト改修工事に必要な壁貫通、補修
○ 44) 浄化槽操作盤を含む2次側電気工事
○ 45) 浄化槽警報回路2次側電気工事
○ 46) 公共樹接続工事
○ 47) プロパン庫
● 48) 手すり
○ 49) ベビーシート・ベビーチェア
○ 50) シャワーパン
○ 51) キッチン
○ 52) 消火器

J) メーカーリスト
本工事に使用する機器材料は、下記または同等以上の規格品を監督員の承諾を得て置くこと
適用 機 材 名 製 造 者 名
● 管材料及び継手 JISマーク又は水マーク表示品
○ 石綿二層管 浅野スレート 昭和電工 トーアトミジ 三菱樹脂
○ 着色ポリエチレン銅管 住友軽金属 古河電気工業
● 弁 類
○ 防振継手 トーフレ 東洋ゴム 日本ペロー工業 プリジストン 本山製作所
○ 防振架台 機器製造岡本 倉敷加工 東海ゴム工業 特許機器
● 排水金物類
○ マンホール類 カネソウ 小島製作所 ダイレク 長谷川精工 福西鉄物
● 衛生器具類
○ 厨房機器 伊丹厨房 大洋厨房 中西製作所 日本調理器
○ 流し台類 クリナップ サンウエーブ 妙ラスタダツ ナステンレス 松下電器
○ 消火栓類 立売燈製作所 北浦製作所 岸本産業 消火栓機工 横井製作所
○ 量水器 愛知時計電機 大阪機工 金門製作所 リコー精機
○ 油量計 オール機器 工技研究所 昭和機器 セイサン製作所
○ 計器類 愛知時計電機 金門製作所 工技研究所 日本フローセル
○ 水槽類 積水77システム プリジストン 森松工業 三菱樹脂 ベルテクノ
○ 受水槽付ポンプユニット 同上4社 荏原製作所 川本製作所 松下電工
○ 製缶類 森松工業 ベルテクノ 島倉鉄工所 三成鉄工 平川鉄工所
○ グリーストラップ カネソウ 下田機工 ダイレク ホーコス
○ 湯沸器 パーパス ノーリツ ハロマ リンナイ
○ バルコ貯槽 伊藤工業 富士機工 矢崎総業
○ ガスコック類 大阪工業 藤井合金
○ 浄化槽 LIXIL クボタ ダイキ ベスト
○ 濾過機 理水化学 成研 富士濾水機 東西化学
○ ヒートポンプエアコン
○ ガスヒートポンプエアコン
○ 空調機 木村機工 三洋電機 昭和鉄工 新晃工業 ダイキン工業
○ FF暖房機 東洋製作所 日立冷熱 松下電器
○ ガスヒートポンプチラー ヤンマー
○ 吸収式冷温水機 荏原製作所 川崎冷熱工業 三洋電機 昭和鉄工 日立製作所
○ 冷却塔 空研工業 信和産業 ダイキン工業 日本スピンドル 松下精工
○ ボイラー
○ ポンプ類 荏原製作所 川本製作所 テラルキョクトウ 日立製作所
○ 送風機 荏原製作所 鎌倉製作所 テラルキョクトウ 日立製作所 松下精工
● 換気扇 三洋電機 東芝 日立製作所 松下電器 三菱電機
○ ダンパー類 空研工業 大東機工 フジモリ産業 丸光産業
○ 吹出口・吸込口 空研工業 新晃工業 日産工業所 丸光産業
○ 自動制御機器 富宮製作所 トキメック 山武ハネウエル 横河ジョンソン
○ 雨水貯留槽
○ 業務用エコキュート 三菱電機 前川製作所 巴商會 イトミック

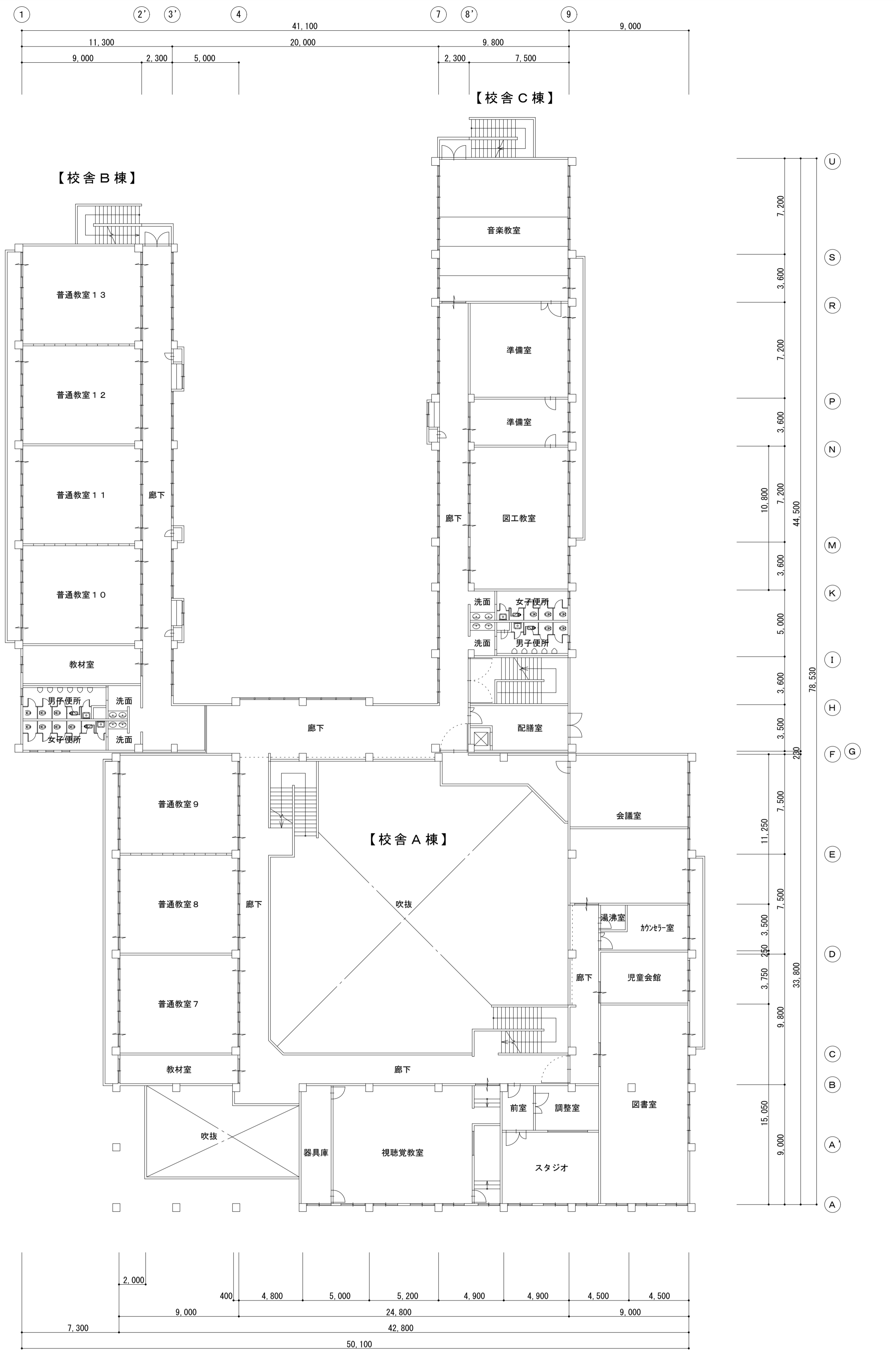
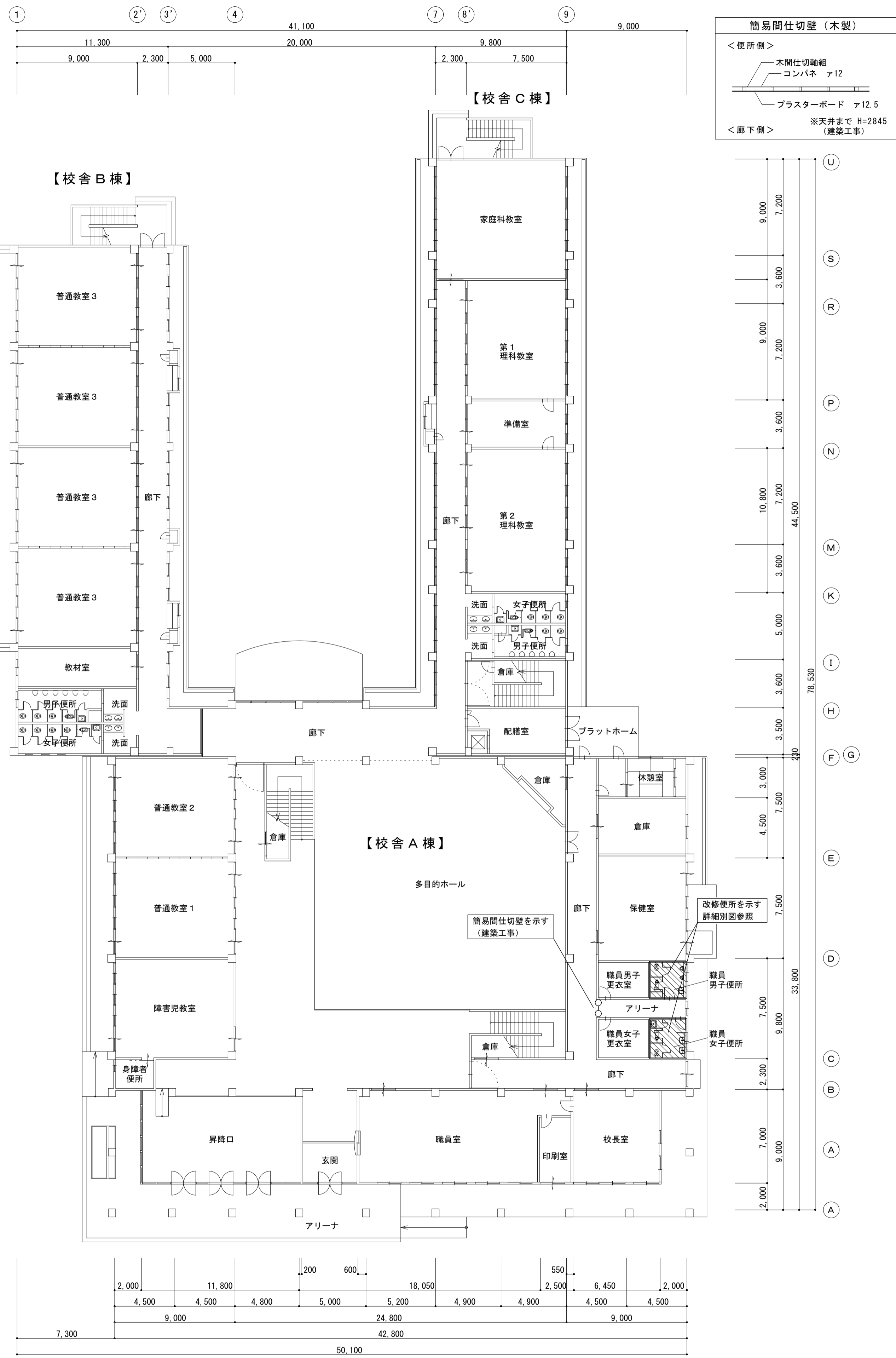
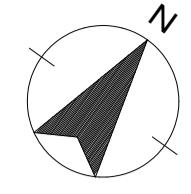
工事番号・工事名 2相連教721号	S-19708	図面の名称	作成年月日
相楽東部広域連立立小中学校トイレ改修工事 (和東小学校第3期)			令和2年5月
機械設備工事特記仕様書(2)			
株式会社 日匠設計	管理建築士 澤田 耕一 検図 杉本 孝良 作図 大久保 晴二	縮尺(A1)	縮尺(A3)
大阪本社 大阪府松原市阿保1丁目3番12号 一級建築士 198531号 澤田 耕一 TEL (072)-331-3857 FAX (072)-334-5931	滋賀事務所 滋賀県湖南市中央2丁目95 一級建築士 109825号 杉本 孝良 TEL (0748)-72-1114 FAX (0748)-72-1166	—	—
			図面番号 M-01



配置図 1:500

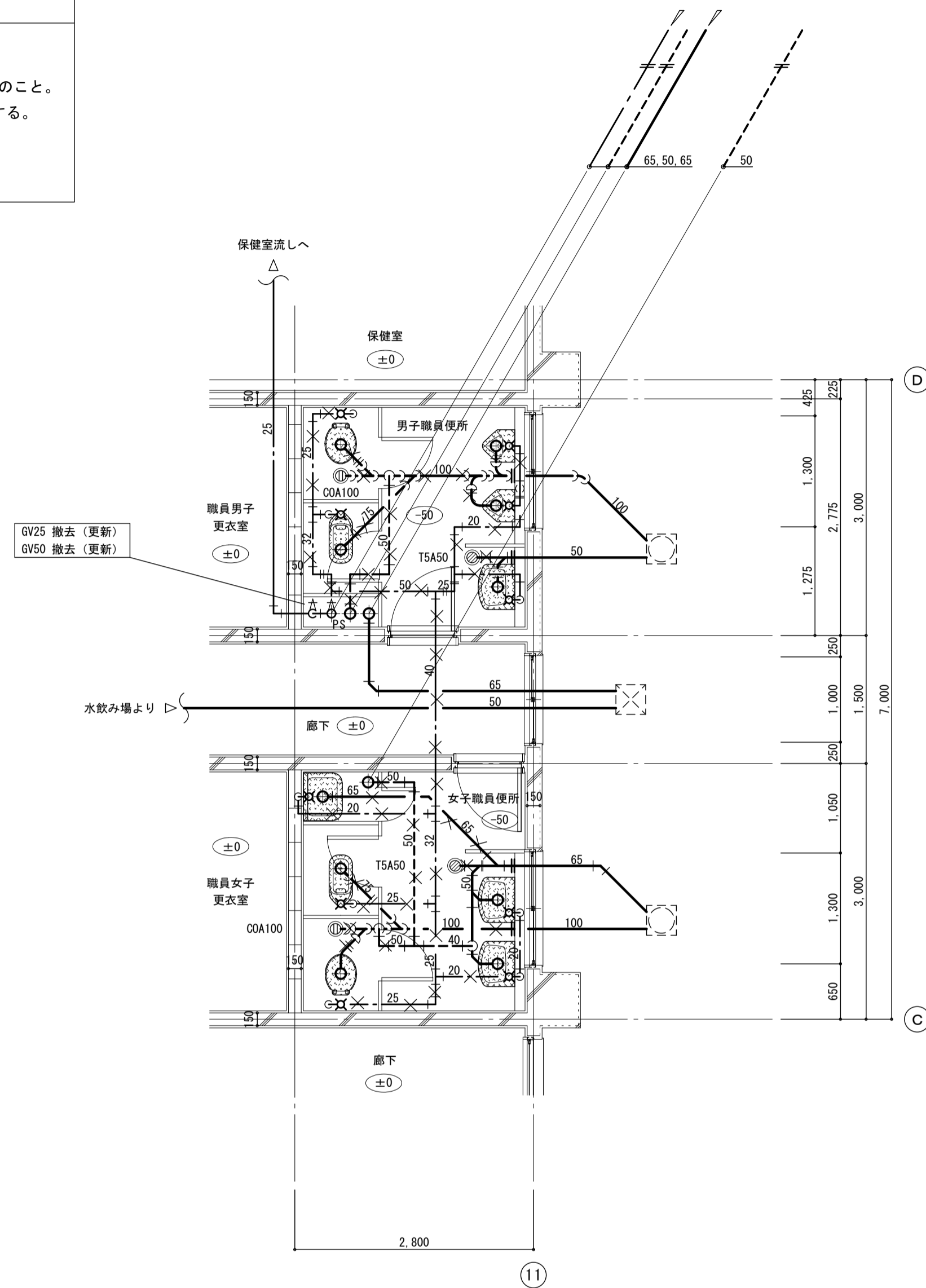
【 註 記 】
 今回工事改修位置を示す

工事番号・工事名 2相連教721号 相楽東部広域連立立小中学校トイレ改修工事 (和東小学校第3期)		S-19708	図面の名称 機械設備工事 配置図	作成年月日 令和2年 5月	
株式会社 日匠設計 大阪本社 大阪府松原市阿保1丁目3番12号 一級建築士 198531号 澤田 耕一 TEL (072)-331-3857 FAX (072)-334-5931 滋賀事務所 滋賀県湖南市中央2丁目95 一級建築士 109825号 杉本 孝良 TEL (0748)-72-1114 FAX (0748)-72-1166		管理建築士 澤田 耕一 検図 杉本 孝良 作図 大久保 晴二	縮尺(A1) 1:500	縮尺(A3) 1:1000	図面番号 M-03



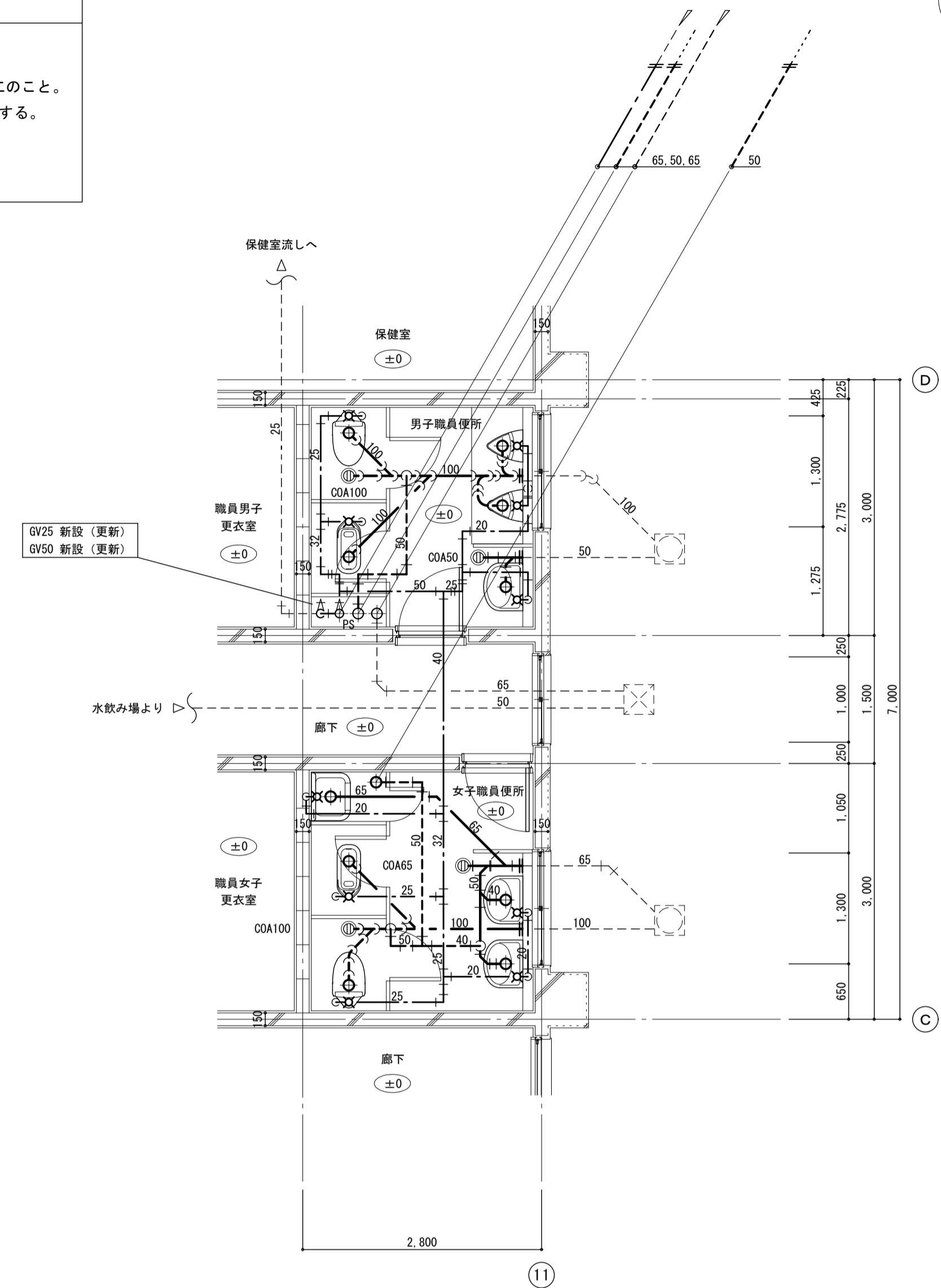
工事番号・工事名 2相連教721号 相楽東部広域連立立小中学校トイレ改修工事 (和東小学校第3期)		S-19708	図面の名称 機械設備工事 1・2階平面図		作成年月日 令和2年5月
株式会社 日匠設計 大阪本社 大阪府松原市阿保1丁目3番12号 一級建築士 198531号 澤田 耕一 TEL (072)-331-3857 FAX (072)-334-5931 滋賀事務所 滋賀県湖南市中央2丁目95 一級建築士 109825号 杉本 孝良 TEL (0748)-72-1114 FAX (0748)-72-1166		管理建築士 澤田 耕一 核図 杉本 孝良 作図 大久保 晴二	縮尺(A1) 1:200	縮尺(A3) 1:400	図面番号 M-04

凡例・特記事項	
	撤去器具を示す。
	撤去配管を示す。
	配管切断箇所を示す。
注記)	
・新規の梁貫通は、不可とする。	
・既設配管 口径・経路 は参考とし現場確認の上施工のこと。	
・配管改修に伴う 壁・床 貫通 及び補修は本工事とする。	
・貫通配管はコア抜き補修とする。	
但し既存貫通穴を極力流用のこと。	
・コア抜きは、事前にX線探査を行なう事。	



(職員便所) 現況 1階 平面詳細図 1:50

凡例・特記事項	
	既設配管を示す。
	既設配管接続箇所を示す。
注記)	
・新規の梁貫通は、不可とする。	
・既設配管 口径・経路 は参考とし現場確認の上施工のこと。	
・配管改修に伴う 壁・床 貫通 及び補修は本工事とする。	
・貫通配管はコア抜き補修とする。	
但し既存貫通穴を極力流用のこと。	
・コア抜きは、事前にX線探査を行なう事。	



(職員便所) 改修 1階 平面詳細図 1:50

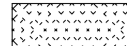

撤去 衛生器具リスト

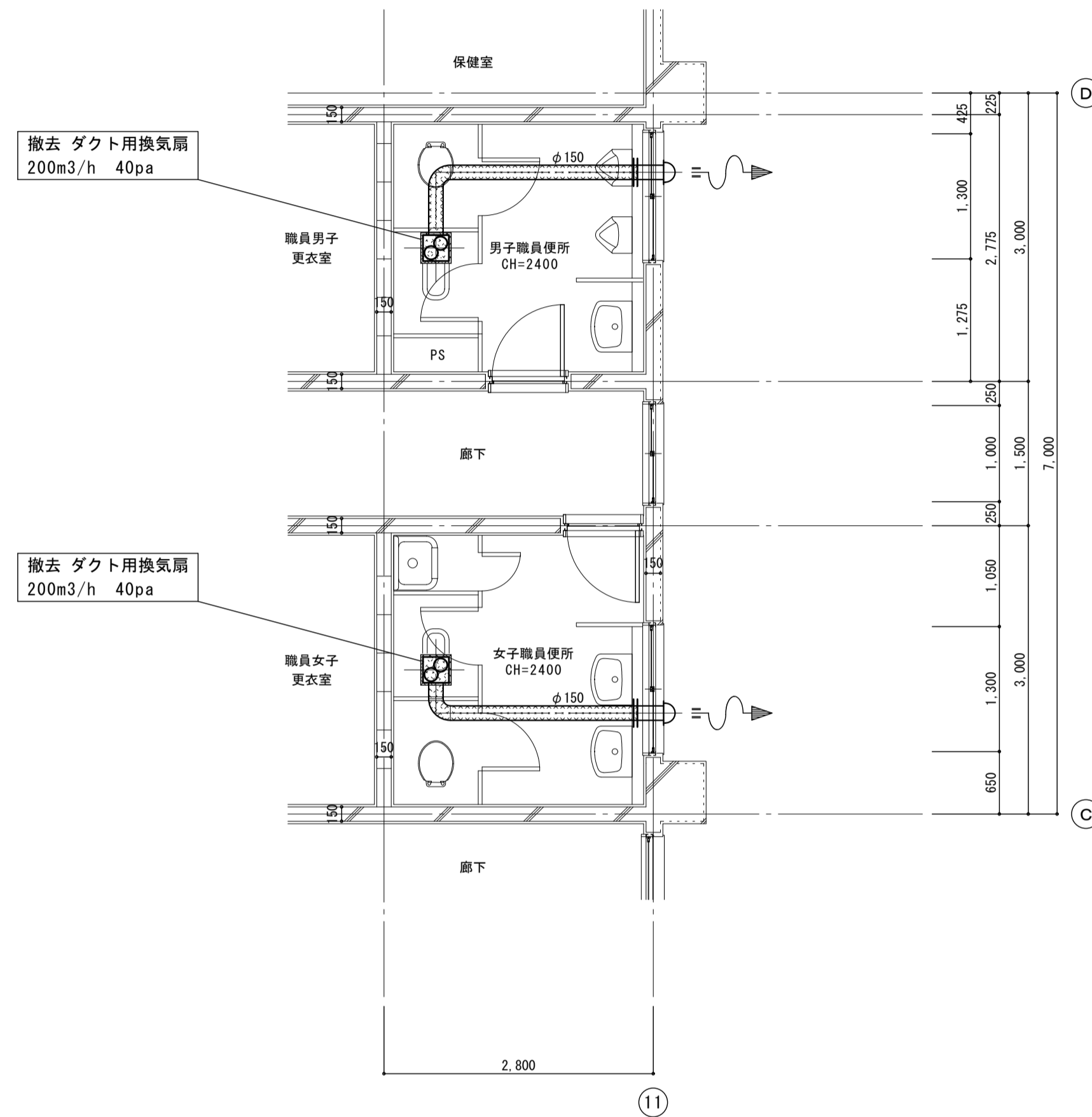
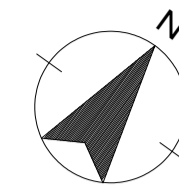
器具名	参考品番	男子職員便所	女子職員便所	合計数量	備考
洋風大便器		1	1	2	フラッシュバルブ式
和風大便器	C750V	1	1	2	フラッシュバルブ式
小便器	U307C	2		2	フラッシュバルブ式
掃除流し	SK22A		1	1	
洗面器	L220	1	2	3	
化粧鏡	TS119ASY3	1	2	3	

新設 衛生器具リスト

器具名	参考品番	付属品・備考	男子職員便所	女子職員便所	合計数量
洋風便器 (掃除口付、フラッシュバルブ)	CFS494CHNS	TC301 (普通便座)・YH701 (棚付二連紙巻器)	1	1	2
和風便器	C755VU	TV550S (フラッシュバルブ)・TSF290BR (配管キット)・T82CR32 (M11)・YH701 (棚付二連紙巻器)	1	1	2
自動洗浄小便器 (自己発電 節水タイプ)	UFS900WR		2		2
掃除用流し	SK22A	TK22 (JL11)・T23AEQ20C (横水栓)・TN114 (止水栓)・T9R (M11)・HH04060 (樹脂トラフ)		1	1
洗面器	L250C	TLC11AR (立水栓)・T6PM1 (壁排水金具)・TLC4A1F (止水栓)・TL250D (M11)	1	2	3
化粧鏡	YM3560A		1	2	3

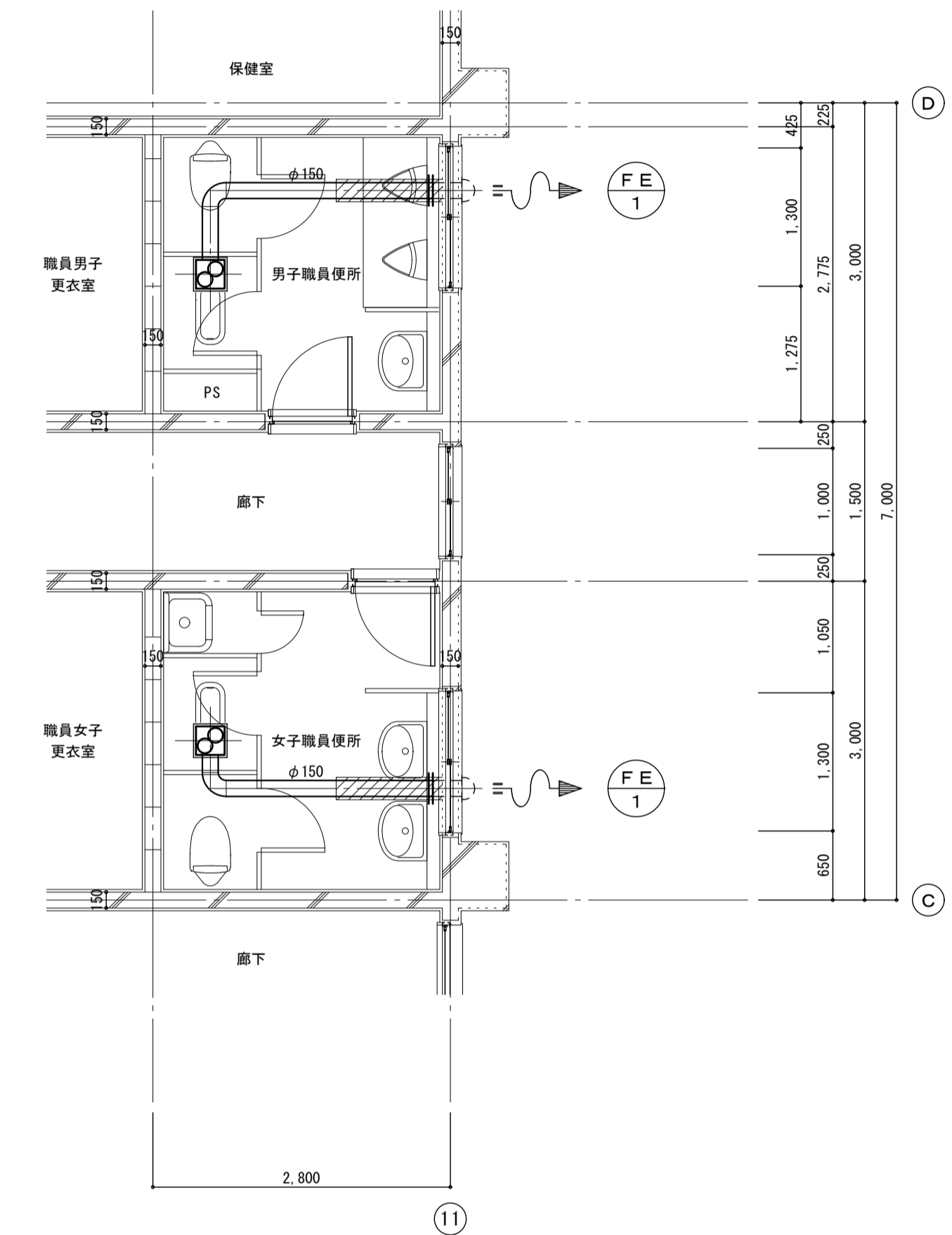
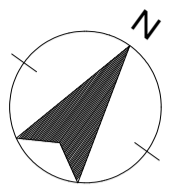
工事番号・工事名	2相連教721号 相楽東部広域連立小中学校トイレ改修工事 (和東小学校第3期)	S-19708	図面の名称	給排水衛生設備 現況・改修 平面詳細図	作成年月日	令和2年 5月
株式会社 日匠設計	管理建築士 澤田 耕一 検図 杉本 孝良 作図 久保 晴二	大坂本社 大坂府松原市阿保1丁目3番12号 一級建築士 198531号 澤田 耕一 TEL (072)-331-3857 FAX (072)-334-5931 滋賀事務所 滋賀県湖南市中央2丁目95 一級建築士 109825号 杉本 孝良 TEL (0748)-72-1114 FAX (0748)-72-1166	縮尺(A1)	縮尺(A3)	図面番号	
			1:50	1:100	M-05	

凡例・特記事項	
	撤去 機器・ダクトを示す。
	ダクト切断箇所を示す。
注記)	
・新規の梁貫通は、不可とする。	
・既設配管 口径・経路 は参考とし現場確認の上施工のこと。	
・配管改修に伴う 壁・床 貫通 及び補修は本工事とする。	
・貫通配管はコア抜き補修とする、 但し既存貫通穴を極力流用のこと。	
・コア抜きは、事前にX線探査を行なう事。	



(職員便所) 現況 1階 平面詳細図 1:50

凡例・特記事項	
	既設ダクトを示す。
	既設ダクト接続箇所を示す。
	ダクト保温工事箇所を示す(外壁より1m 7÷ガラスâ化粧 GW保温 25mm)
注記)	
・新規の梁貫通は、不可とする。	
・既設配管 口径・経路 は参考とし現場確認の上施工のこと。	
・配管改修に伴う 壁・床 貫通 及び補修は本工事とする。	
・貫通配管はコア抜き補修とする、 但し既存貫通穴を極力流用のこと。	
・コア抜きは、事前にX線探査を行なう事。	



(職員便所) 改修 1階 平面詳細図 1:50

新設 機器リスト

記号	名称	仕様 / 形式	電源	消費電力 (定格)	数量	備考 / 参考品番
FE 1	ダクト用換気扇	形式: 天井埋込形 インテリア格子タイプ	1φ100V	28.5W	2	職員便所
		換気風量: 200m ³ /h (40Pa) ダクト径: φ150 必要部材 1式共				VD-18X10-C (三菱電機 同等品)

工事番号・工事名	2相連教721号 相楽東部広域連立小中学校トイレ改修工事 (和東小学校第3期)	S-19708	図面の名称	換気設備 現況・改修 平面詳細図	作成年月日	令和2年 5月
株式会社 日匠設計	管理建築士 澤田 耕一 検図 杉本 孝良 作図 大久保 晴二	大坂本社 大坂府松原市阿保1丁目3番12号 一級建築士 198531号 澤田 耕一 TEL (072)-331-3857 FAX (072)-334-5931 滋賀事務所 滋賀県湖南市中央2丁目95 一級建築士 109825号 杉本 孝良 TEL (0748)-72-1114 FAX (0748)-72-1166	縮尺(A1)	縮尺(A3)	図面番号	M-06
			1:50	1:100		

保温施工標準図(1)

給水・排水(通気) 空調ドレン管

材	料	名	規	格	備	考
1	グラスウール	保温筒	JIS A	9504	40K	以上
2	鉄線		JIS G	3547		
3	合成樹脂製カバ				板厚	0.3mm以上

給湯・温水(膨張管含む)・蒸気・冷水・冷温水

材	料	名	規	格	備	考
1	グラスウール	保温筒	JIS A	9504	40K	以上
2	鉄線		JIS G	3547		
3	ポリエチレンフィルム		JIS Z	1702	厚さ	0.05mm
4	合成樹脂製カバ				厚さ	0.3mm以上

※ 給湯、温水、蒸気の場合はポリエチレンフィルムを省略する。

保温材の厚さ

呼び径	15	20	25	32	40	50	65	80	100	125	150	200	250	300	参考使用区分	
I	R	20					25				40					ロックウール
	G	20					25				40					グラスウール
	P	20					25				40					ポリスチレンフォーム
II	R	20					25				40					ロックウール
	G	20					25				40					グラスウール
III	R	25	30			40									ロックウール	
	G	25	30			40									グラスウール	
IV	R	30			40				50						ロックウール	
	G	30			40				50						グラスウール	
P	30			40				50						ポリスチレンフォーム		
V														25	機器、排気筒、煙道、内貼	
VI														50		
VII														75	ダクト	
VIII														50または25		

※ 詳細は標準仕様書による。なお、高圧(0.1MP以上)の蒸気管及び蒸気ヘッダーの保温は、特記による。

防火区画貫通箇所施工要領

〔給排水管〕
1. 鋼管の場合
※ 管径に関係なく通常の保温工事でよい。
※ 区画貫通箇所はロックウール材又はモルタル詰めを行う。

〔V.P.管の場合〕
【最上階4階まで 1時間耐火】
※ 12.5mm以上は鋼管または大臣認定の耐火二層管を使用する。
※ 100mmには0.5t垂鉛鉄板を前後1m巻くこと。
・保温は保温材がポリスチレンフォーム保温筒の場合はロックウール保温帯25tを鉄線にて取り付ける。
・区画貫通箇所はロックウール材又はモルタル詰めを行う。
・鉄板は区画貫通箇所を通して、前後1m管材の上に巻きその上に保温を行う。
※ 7.5mm以下は鉄板巻き不要である。
・保温材はポリスチレンフォーム保温筒でよい、ただし貫通箇所はロックウール保温材又はモルタル詰めを行う。

〔ダクト〕

〔冷水、冷温水管〕

機械室・書庫・倉庫(厨房の天井内を含む)

材	料	名	規	格	備	考
1	グラスウール	保温筒	JIS A	9504	40K	
2	鉄線		JIS G	3547		
3	原紙				1㎡	370g以上
4	アルミガラスクロス		JIS R	3414	EP18A	

※ 原紙+アルミガラスクロスに替えアルミガラス化粧原紙を使用できる
※ 天井、PS内の場合は原紙を省略し、7÷ラジエーションガラス保温筒+7÷ラジエーション接着テープ(幅50mm)とする。

給湯・温水、蒸気の場合はポリエチレンフィルムを省略する。

材	料	名	規	格	備	考
1	グラスウール	保温筒	JIS A	9504	40K	
2	鉄線		JIS G	3547	線径	0.6mm
3	ポリエチレンフィルム		JIS Z	1702	厚さ	0.05mm
4	原紙				1㎡	370g以上
5	アルミガラスクロス		JIS R	3414	EP18A	

※ 原紙+アルミガラスクロスに替えアルミガラス化粧原紙を使用できる
※ 天井、PS内の場合は原紙を省略する。
※ 給湯・温水、蒸気配管の天井、PS内はアルミガラス化粧グラスウール保温筒+アルミガラスクロス接着テープとする。

- 共通事項
- ポリスチレンフォーム保温筒は、1本(1m)につき2箇所以上粘着テープ2回巻きとする。
 - テープ巻きその他の重なり幅は、原則として、テープ状の場合は15mm以上(ポリエチレンフィルムの場合は1/2重ね以上)、その他の場合は30mm以上とする。
 - テープ巻きは、配管の下方より上向きに巻き上げる。アルミガラスクロス巻き等で、ずれおそれのある場合には、粘着テープ等を用いてずれ止めを行う。
 - 合成樹脂製カバの取付は、直管の合わせ幅は25mm以上とし、合わせ目を両面テープで貼り合わせた後、150mm以下のピッチで、合成樹脂製カバ用ピンで押さえる。
 - 屋内露出配管の保温見切り部分には窮産を取付ける。
 - 保温筒取り付けの鉄線巻きは1本(1m)につき2箇所2回巻きとする。
 - 鉄板巻きの継目部にはシールを行う。
 - グラスウール保温筒、保温板の使用困難な箇所は、保温帯または波形保温板を使用してもよい。
 - ポリスチレンフォーム保温筒の使用困難な箇所は、ロックウール保温帯、ロックウールフェルト、グラスウール保温帯又は波形保温板を使用してもよい。
 - 屋内露出の配管及びダクトの床貫通部は、その保温材保護のため、床面より少なくとも高さ150mmまでステンレス鋼板で被覆する。
 - 通気管の保温は排水分岐より100mmのみ保温を行う。

〔ダクト〕

〔冷水、冷温水管〕

V.P.管7.5A以下は鋼管と同じ貫通部分にポリスチレンフォーム保温筒又はグラスウール保温筒を使用してはならない。

床下・暗渠内 (ピット内を含む)

材	料	名	規	格	備	考
1	ポリスチレンフォーム	保温筒	JIS A	9511	3号	
2	粘着ビニールテープ		JIS Z	1525	厚さ	0.2mm
3	ポリエチレンフィルム		JIS Z	1702	厚さ	0.05mm
4	着色アルミガラスクロス				黒色	

※ 共同溝の保温の種別は特記による。
※ 排水管、空調ドレン管で暗渠内(ピット内を含む)、最下階の床下配管及び耐火二層管は保温を行わない。

給湯・温水、蒸気の場合はポリエチレンフィルムを省略する。

材	料	名	規	格	備	考
1	グラスウール	保温筒	JIS A	9504	40K	
2	鉄線		JIS G	3547		
3	ポリエチレンフィルム		JIS Z	1702	厚さ	0.05mm
4	着色アルミガラスクロス				黒色	

冷水・冷温水管の配管支持具

① 断熱支持具
② グラスウール保温筒
③ バンド

断熱支持具の厚さ(T)と長さ(L)			
A	T	L	
15A~25A	20	50	
32A~150A	30	50	
200A	30	100	
250A~300A	40	100	

※ 台型断熱材の厚さはハンガー型と同じとする。
※ 台型の場合は標準品(既製品+10mm)を使用する。
※ ハンガー型は蝶番式又は堤灯型を使用する。

井フランジなどの保温

給水、給湯、温水、蒸気

冷水、冷温水

※ 給湯、温水、蒸気配管で室内及び暗渠内の伸縮継手、防震継手、フレキシブルジョイント、及び井フランジは保温を行わない。
※ 蒸気、温水配管で室内及び暗渠内の各種装置廻りの配管は保温を行わない、ただし火傷の可能性がある場合は火傷防止をおこなう。
※ 屋外は金網の下にポリエチレンフィルムを巻く。
※ 給水、給湯、冷水、冷温水用の露出配管で、保温を行う6.5A以上の弁、ストレーナー等はビスなどにより容易に脱落できる金属製カバーによる外装を施す。(室内外共：カラー垂鉛鉄板またはステンレス鋼板)

浴室外露出(厨房等の多温箇所)

材	料	名	規	格	備	考
1	ポリスチレンフォーム	保温筒	JIS A	9511	3号	
2	粘着テープ		JIS Z	1525	厚さ	0.2mm以上
3	ポリエチレンフィルム		JIS Z	1702	厚さ	0.05mm
4	ステンレス鋼板		JIS G	4305		

※ 厨房、浴室等の多温箇所はステンレス鋼板とする。
※ 排水管、空調ドレン管で屋外露出及び耐火二層管は保温を行わない。

給湯・温水、蒸気の場合はポリエチレンフィルムを省略する。

材	料	名	規	格	備	考
1	グラスウール	保温筒	JIS A	9504	40K	
2	鉄線		JIS G	3547		
3	ポリエチレンフィルム		JIS Z	1702	厚さ	0.05mm
4	ステンレス鋼板		JIS G	4305		

冷媒配管(全ての施工場所)

材	料	名	規	格	備	考
1	グラスウール	保温筒	JIS A	9504	40K	20mm厚
2	鉄線		JIS G	3532		
3	ポリエチレンフィルム		JIS Z	1702	厚さ	0.05mm
4	外装材は冷温水に準じる					

※ ただし、天井内、PS内、空腔壁内、床下は上記に代えて断熱材被覆鋼管(保温厚20mm)とする。

配管行先表示板

パイプシャフト表示板

点検口表示板

管種	色	管種	色
給水管	青	温水管	緑が色
排水管	青	冷温水管	濃青、緑が色
井水管	青	蒸気管	暗い赤
雑排水管	茶	冷却水管	淡水色
汚水管	茶	膨張管	緑が色 2本
通気管	茶の破線	油管	黄
消火管	赤	空気管	白
ガス管	緑	給湯管	肌色
冷水管	濃青色	冷媒管	緑 2本

※ 表示板の材質は塩化ビニール樹脂製とする。
※ 屋内外露出の配管名表示部分には、縦書きの場合は下部、横書きの場合は左側に色別バンドを取り付ける。

※ 特記以外はこの施工標準図による。
※ 設計図書に明記の無い場合又は疑いが生じた場合は監督員と協議する。
※ 現場の取組み、取り合い等の関係で設計図書によることが困難又は不都合な場合は監督員と協議する。
※ 詳細は国土交通省機械設備工事標準仕様書及び同施工監理指針に基づく。